

道徳教育における学校間の接続に関する調査研究 研究テーマ

道徳の特質等を生かした小中学校間における滑らかな接続に関する調査研究

小中学校の児童生徒の健やかな成長を目指すに当たり、道徳教育の充実是不可欠であり、小中学校の連携による取組推進の必要性が指摘されるが、推進状況は十分ではない。本研究では、その一因に小中学校の教員間の意識の違いと、学校種間での児童生徒理解、教育活動の共通理解の不足等があると捉えた。そこで、接続期における児童生徒の意識調査、接続期に対する小中学校の教師の意識調査を実施、分析し、道徳教育における小中学校間の滑らかな接続推進のための具体的な方策についての研究をすすめた。

1 調査研究の視点

- ・道徳教育の現状、課題の把握（道徳教育推進状況調査結果等より）
- ・学校間の接続に係る児童生徒及び教員の意識アンケートによる実態把握及び検討
- ・調査結果を踏まえた具体的方策の検討

2 調査研究の取組

（１）小中学校間の接続に係る実態の把握

- ① 学校間の接続に係る児童生徒意識調査
本研究で実施した共通調査における道徳教育推進に係る項目の結果を分析した。
- ② 小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査
県内道徳教育推進教師を対象として、小中学校間連携に係る道徳教育推進に関する意識調査を実施、結果を分析した。

（２）調査結果をふまえた道徳教育推進による学校間連携に係る具体的方策の検討

- ① 道徳教育推進の視点で
小中学校の接続期（小学校第6学年～中学校第1学年）における道徳学習モデルプランの作成
- ② 道徳の時間充実の視点で
小中学校の接続期における道徳の時間の授業例の作成
ア 小学校第6学年における授業例
イ 中学校第1学年における授業例

3 成果と課題

（１）成果

【児童生徒共通意識調査結果等より道徳の時間の充実へ】

- ・特に小中学校の接続期（小6→中1）において、自尊感情、自己肯定感の低下傾向が強く表れた。児童生徒の中での「中1ギャップ」の表れである。その実態を踏まえて、道徳学習モデルプランと内容項目1－(2)「希望・勇気・努力」に係る授業例の作成へつなげた。

【教員の意識調査結果等よりモデルプランへ】

- ・小中学校教員間で接続期での意識に大きな差（教員間の「中1ギャップ」）があるといえる。
→小「なめらかに」中「あつてしかるべき」
- ・一因として、小中学校相互の教育活動への理解不足、道徳の時間における取組等への理解不足があり、あわせて共通理解を図るための機会、時間等の不足が挙げられた。
- ・教員の意識の違い（ギャップ）解消のための具体的な方策として、小中学校間の接続を図る際のモデルプランを提示できた。

（２）課題

【モデルプラン等の有用性の検討へ】

- ・自尊感情、自己肯定感の育成を念頭に内容項目1－(2)「希望・勇気・努力」に係る授業例、小中学校の接続期における道徳学習モデルプランを提示したが、今後モデルプラン等の有用性について、実際に活用する機会を設定し、検討、改善を図る必要がある。

【道徳】

1 はじめに

小・中学校の児童生徒の健やかな成長を目指すにあたり、道徳教育の充実は不可欠である。各小・中学校においては、それぞれの立場において、児童生徒の実態を把握し、道徳教育推進のための具体的な取組の充実を図っている。反面、学校種を越えた連携による取組推進の必要性が指摘されているが、具体的な推進状況は十分ではない。

本研究では、道徳教育の視点から、改めて小・中学校の接続期における児童生徒の実態を十分把握すると同時に、学校間接続に関する小・中学校教員の意識、具体的な取組状況を調査する必要があると考えた。そこで、接続期における児童生徒の意識調査、接続期に対する小・中学校の教師の意識調査を実施、分析し、学校間連携推進を妨げる要因を明確にし、道徳教育における小・中学校間のなめらかな接続推進のための具体的な方策についての研究をすすめた。

2 調査研究の視点

(1) 道徳教育における現状 -小中連携の必要性(違いを理解し合い、協働する)-

道徳の時間の目標に示されるように、道徳の時間においては、「各教科（、外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、」とあり、さらに、小学校の目標には、「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め」ること、中学校の目標には、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」ことが示された。これは、学年の段階に応じた内容を計画的、発展的に指導していくこと、小・中学校の児童生徒の違いに対して、指導内容、指導方法の違いを理解し、明確に指導する必要があるということである。

しかし、現状は、各小・中学校において、お互いの指導内容の共通理解が進んでいない。道徳の時間における児童生徒の受け止めは、小学校と中学校では相当に異なっていることから、より効果的に指導を行うためには、小学校と中学校の教員が相互に指導の重点や特色について明確にし、共通理解を図り、その中で小中学校が連携を密にする具体的な方策の検討が必要である。

(2) 道徳教育における課題 -自尊心、自己を肯定的に受け止めること(自己肯定感)の大切さ-

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など各種の調査から、我が国の児童生徒についての課題として自分への自信の欠如や、自らの将来への不安を感じる、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことが挙げられている。このことを踏まえて、平成20年1月の中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の中でも、「豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」として、徳育の充実等により、自分への自信を持たせる必要性が提言され、これを踏まえて、学習指導要領が改訂されている。

各小・中学校においては、基本的な生活習慣や人間としてしてはならないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、他者への思いやり、自他の生命の尊重、法やルール遵守等の道徳性を大切にしながらも、「自分への信頼感や自信などの自尊心」、「自己を肯定的に受け止めること(自己肯定感)をはぐくむことなどを、重要な課題として捉える必要がある。

(3) 学習指導要領解説における異校種間連携について

小・中学校学習指導要領解説道徳編の中では、異校種間連携について、「第7章 家庭や地域社会との連携 第2節 家庭や地域社会との連携による道徳教育」において、以下のように示されている。

「また、道徳教育の連続性、一貫性を考える観点からは、小学校と中学校、中学校と高等学校などの学校間の連携を一層充実させる必要があるが、中学生が小学校の運動会に参加したり、幼稚園や保育園で職場体験活動を行ったり、高校生と地域の問題を語り合ったりする活動が行われている。これらは子どもの道徳性の育成に資する体験活動や実践活動である。」

(中学校学習指導要領解説道徳編の第7章第2節1—(3)「中学校間や異校種間及び特別支援学校等との連携を生かした推進」)

「また、幼稚園や保育所、中学校や高等学校、特別支援学校などとの異校種間の連携を図ることによって、各学校を含む地域が一体となって子どもの心をはぐくむ活動を進めることも考えられる。」

(小学校学習指導要領解説道徳編の第7章第2節1—(3)「中学校間や異校種間及び特別支援学校等との連携を生かした推進」)

道徳教育を進めるに当たっては、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得て共に活動する中で、共通理解を深め、相互の連携が密になるように配慮する必要がある。そのため、地域の中での道徳教育の連続性、一貫性の観点から、学校間の連携について一層の充実を図ることが肝要である。

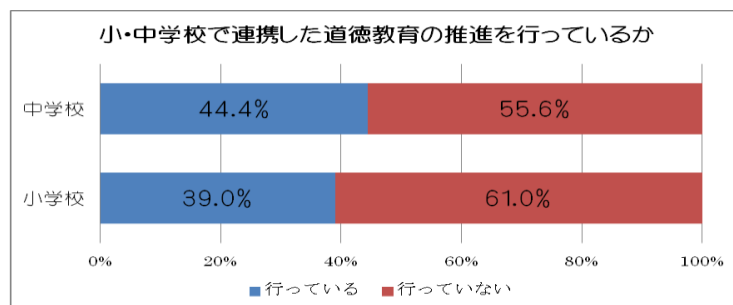
なお、道徳教育推進教師は各学校の実態をよく把握し、学校や学年の接続や系統性を踏まえて学校間や異校種間の連携が道徳性の育成にどのようにかわるのか、取組への全教師の共通理解を促すとともに、橋渡しとなってその連携を推進することが求められる。

(中学校学習指導要領解説道徳編の第7章第2節1—(3)「中学校間や異校種間及び特別支援学校等との連携を生かした推進」)

道徳教育での学校間連携を進めるに当たっては、各学校の実態を把握し合い、学校や学年の接続や系統性を踏まえた道徳性の育成について、お互いの取組への共通理解を図る必要性がある。さらに、その中心として各学校の道徳教育推進教師の役割が重要となると言える。

(4) 平成23年度道徳教育推進状況調査結果より-埼玉県における連携の実際-

埼玉県で平成24年1月から2月に実施された、平成23年度道徳教育推進状況調査の中で、「小・中学校で連携した道徳教育の推進を行っているか」について、具体的な取組内容をあわせて調査している。その結果、小・中学校が連携して道徳教育を推進している小・中学校の割合が4割程度に止まった。



さらに、具体的な取組内容について、小・中学校毎の実施内容とその割合について示したもの

が以下の通りである。

小中学校で連携した道德教育の具体的な取組について(行っている中学校161校)			
取組内容	実施校	小中連携実施校 (161校)中	全 365 校 中
小・中学校の教員同士が協力して授業(T.T.など)を行う	17	10.6%	4.7%
道德の時間の授業参観、研究協議を相互に行う	108	67.1%	29.6%
道德教育について、合同研修会を行う	65	40.4%	17.8%
保護者や地域の方を対象に、道德講演会を共催で行う	2	1.2%	0.5%
児童生徒が合同で奉仕作業などの体験活動を行う	35	21.7%	9.6%
児童生徒が合同であいさつ運動などの実践活動を行う	42	26.1%	11.5%
その他	8	5.0%	2.2%

小中学校で連携した道德教育の具体的な取組について(行っている小学校278校)			
取組内容	実施校	小中連携実施校 (278校)中	全713校中
小・中学校の教員同士が協力して授業(T.T.など)を行う	34	12.2%	4.8%
道德の時間の授業参観、研究協議を相互に行う	152	54.7%	21.3%
道德教育について、合同研修会を行う	90	32.4%	12.6%
保護者や地域の方を対象に、道德講演会を共催で行う	13	4.7%	1.8%
児童生徒が合同で奉仕作業などの体験活動を行う	63	22.7%	8.8%
児童生徒が合同であいさつ運動などの実践活動を行う	87	31.3%	12.2%
その他	17	6.1%	2.4%

小・中学校それぞれの回答を見ると、小中学校で連携をした道德教育の取組として「道德の時間の授業参観、研究協議を相互に行う」と回答した学校が一番多かったが、小中学校全体から見ると、その割合は、全体の3割未満に止まっている。(小学校29.6%、中学校21.3%)また、具体的な取組を実施したと回答した小中学校においても、1校当たり平均1.7種類程度の取組を実施しているに過ぎない。それぞれの取組を複数回実施していることも考えられるが、多くの学校では、小・中学校で連携した道德教育の具体的な取組が充実しているとは言えない。取組実施数の数値の低さから見ても、それぞれの取組が単発的な取組となっている可能性が高い。

各小・中学校における道德教育に係る多様な取組による連携の推進に向けて、具体的な実施計画のモデルを示すことが必要である。

3 研究テーマ

道徳の特質等を生かした小中学校間における滑らかな接続に関する調査研究

本研究では、道徳教育における学校間連携が進まない要因を、小中学校の教師間の意識の違いと、校種間での児童生徒理解、教育活動の共通理解の不足等にあると捉えた。そこで、接続期における児童生徒の意識調査、接続期に対する小中学校の教師の意識調査を実施、分析し、道徳の特質を生かした、道徳教育における小中学校間の滑らかな接続推進のための具体的な方策について、研究を進めた。

4 研究の取組

研究テーマに基づき、以下のように研究を進めた。

- ・道徳教育の現状、課題の把握（学習指導要領解説、道徳教育推進状況調査結果より）（※前述）
- ・学校間の接続に係る児童生徒及び教員の意識調査による実態把握・検討
- ・調査結果をふまえた具体的方策の検討



〈調査研究の具体的内容〉

○ 小中学校間の接続に係る実態の把握

（１）学校間の接続に係る児童生徒の意識調査結果より（P5～）

本研究で実施した共通調査における道徳教育推進に係る項目の結果を分析する。

（２）小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査結果より（P9～）

県内道徳教育推進教師を対象として小中学校間連携に係る道徳教育推進に関する意識調査を実施し、結果を分析する。

○ 道徳の特質を生かした学校間連携に係る具体的方策の検討

（３）小中学校の接続期における道徳学習モデルプランの作成（P17～）

道徳教育推進の視点で（道徳教育の特質：全教育活動を通して行う道徳教育の視点）

小中学校の接続期において、小学校と中学校で連携して道徳教育の推進を図るモデルとなる指導計画（プラン）を作成する。小中学校の教員が互いに指導の重点や諸活動について共通理解を図れる、小中学校が連携推進のための具体的な取組の改善充実に資するプランを目指す。

モデルプランで取り上げる時期：小学校第6学年1学期～中学校第1学年2学期

重点的に指導する内容項目：小学校第5・6学年 1－(2)「希望・勇気・努力」
：中学校 1－(2)「希望・勇気・強い意志」

（４）小中学校の接続期における道徳の時間の授業例の作成（P22～）

道徳の時間の充実の視点で（道徳の時間の特質：「要」としての道徳の時間）

モデルプランにおいて、重点的に指導する内容項目として位置づけた、内容項目1－(2)についての道徳の時間の授業例を作成する。

① 小学校第6学年における授業例

② 中学校第1学年における授業例

小中学校の接続期における児童生徒の自分への信頼感や自信などの自尊感情、自己を肯定的に受け止める心（自己肯定感）をはぐくむための、道徳教育の「要」となる道徳の時間の具体的な授業例とする。

(1) 接続期における児童生徒の意識に関する共通調査結果より

平成24年度調査研究「学校間の接続に関する調査研究」共通調査として実施した、児童生徒の意識調査のうち、道徳教育に関連する項目について、特徴的なものを内容毎にまとめて、考察を行った。※ 詳細は別紙共通調査結果 参照

ア 「自分」に対する意識-1『自己肯定感の高さ』（自分に対して肯定的な回答の割合）

質問6「良いところがたくさんある。」

小6（51.8%）→中1（39.2%）→中3（32.5%）→高1（26.8%）

質問8「自分自身にだいたい満足している。」

小6（58.0%）→中1（45.8%）→中3（29.1%）→高1（27.1%）

質問10「1年前に比べて、いろいろなことで成長したと思う」

小6（90.0%）→中1（79.6%）→中3（79.1%）→高1（67.8%）

質問11「近ごろ、いろいろなことがわかるようになってきたと思う。」

小6（87.4%）→中1（75.0%）→中3（73.9%）→高1（65.6%）

質問38「いろいろな悩みについて自分で乗り越えていける。」

小6（68.5%）→中1（64.5%）→中3（65.0%）→高1（64.5%）

質問40「自分の良さ・個性を伸ばすことができている。」

小6（67.6%）→中1（60.8%）→中3（56.4%）→高1（51.8%）

〈考 察〉

「良いところがたくさんある」の肯定的な回答の割合は、小6で半数程度、その後学年の段階が上がる毎に低下傾向を示している。「自分自身にだいたい満足している」割合も同様である。反面、「1年前に比べて、いろいろなことで成長したと思う」、「近ごろ、いろいろなことがわかるようになってきたと思う。」等、自分の成長を感じるかを問う質問項目については同様に低下傾向を示すが、数値自体は前述の質問項目と比較して高いと言える。

成功体験等を積み重ねて、成長している実感を感じさせる機会を増やすと同時に、道徳の時間の中でも、改めて体験活動での成功体験などをその時間の終末等で取り上げることで、教育活動全体で行われている道徳教育について、補充、深化、統合を図っていく必要がある。

イ 「自分」に対する意識-2 『自己肯定感の低さ』（自分に対して否定的な回答の割合）

質問7「いつも失敗ばかりしていると思う。」

小6（64.7%）→中1（65.4%）→中3（74.7%）→高1（73.3%）

質問9「ときどき、自分は役に立たない人間だと思うことがある。」

小6（55.5%）→中1（60.1%）→中3（64.0%）→高1（62.1%）

質問20「何となくさみしい。」

小6（21.0%）→中1（24.5%）→中3（30.9%）→高1（39.4%）

質問21「すぐ、不安になる。」

小6（37.2%）→中1（40.8%）→中3（48.6%）→高1（49.6%）

〈考 察〉

自分自身について否定的に捉えている児童生徒の意識についての質問項目である。学年の段階が上がる毎に、自分に対して、否定的な回答は高くなるが、学年の段階で、著しく大きな変化は見られない。

どの学年の段階でも、失敗体験はあり、不安にもなる。それを当たり前のものとして、肯定的に捉える、例えば、「失敗は成功のもと」、「失敗を乗り越えて成長できる」等、肯定的な意識を持たせるきっかけを与えられるような、道徳の時間の授業例を示すことが重要である。

ウ 「自分」に対する意識-3（目的意識の高さに関する項目についての回答の割合）

質問 1 5 「熱中できるものが欲しい。」

小 6 （74.4%）→中 1 （68.4%）→中 3 （73.7%）→高 1 （73.2%）

質問 2 6 「将来何になりたいか決めている。」

小 6 （78.2%）→中 1 （70.5%）→中 3 （55.3%）→高 1 （64.9%）

質問 2 7 「自分なりの目標を持ちたいと思う。」

小 6 （89.1%）→中 1 （81.1%）→中 3 （86.7%）→高 1 （87.7%）

質問 2 8 「自分のこれからの将来は明るいと思う。」

小 6 （75.7%）→中 1 （67.8%）→中 3 （55.0%）→高 1 （48.9%）

〈考 察〉

中 1 の段階での生徒の「熱中できるもの」、「自分なりの目標」に係る回答の数値が低いことは、中 1 での学校生活の大きな変化が要因となって、目的意識を失う生徒が増えてくるためと考えられる。「目的意識を失う」ことも「中 1 ギャップ」の 1 つの形である。

児童生徒の目的意識の内容は、学年の段階によって変化していく。小 6 で求める、「熱中できるもの」や「将来になりたいもの」、「自分なりの目標」の内容は、中 1、中 3、高 1 へと学年の段階が進むにつれて、より現実的なもの、より社会生活に生きるもの等に変化していく。学年の段階を意識して、適切な目的意識を持たせるために、「自己の生き方について考えを深める」、「人間としての生き方についての自覚を深める」ことにつながる道徳の時間や道徳教育の具体的な計画の必要性を感じる。

エ 友だちについての意識

道徳性の発達の段階に目を向けると、自律的な道徳性をはぐくむにあたり、友だちから大きな影響を受ける思春期の児童生徒にとって、以下の項目については、特に考慮する必要がある。

質問 1 4 「仲のよい友だちがいる」

小 6 （96.2%）→中 1 （91.1%）→中 3 （93.9%）→高 1 （92.3%）

質問 3 9 「互いに高め合う良い友人に恵まれている」

小 6 （85.9%）→中 1 （78.5%）→中 3 （82.2%）→高 1 （77.3%）

質問 4 7 「友だち関係（どのくらい満足しているか）」（肯定的な回答の割合）

小 6 （87.8%）→中 1 （81.0%）→中 3 （88.4%）→高 1 （82.8%）

〈考 察〉

友だち関係についての肯定的な回答の割合は、どの質問でも小 6 が高く、中 1 で数値を大きく落とし、中 3 で再度高い数値を示している。小・中学校の接続期における友だち関係での不安感により、

一度低下するが、その後の中学校生活を通して、友だちとのかかわりがより深まった中３の時期においては、再度高い数値が表れたと言える。

友達についての項目は、肯定的な回答の割合が他の質問項目より非常に高い。これは、友達との人間関係を大切にする、思春期の児童生徒の特性が表れている。児童生徒の道德性の育成にあたり、友だち同士の価値観の交流がおこなわれるよう、道德の時間での話し合いを深めていく必要がある。

オ 学校生活に関する意識-1 学校生活全般の傾向

すべての項目で「小６→中１」間、「中３→高１」間の異校種間の接続期において、肯定的な回答の割合が低下している。このことから、児童生徒は、異校種間の学校生活について、ギャップを感じているといえる。

特に、中１における意識の差（中１ギャップ）は、学校生活のシステムの激変（教科担任制、最高学年から、１年生としての立場の変化）から起こっており、ギャップも大きい。

学校生活に対する以下の項目の回答にも中１ギャップの傾向が表れている。

質問４１ 「自分の学校生活は恵まれた環境にある」（肯定的な回答の割合）

小６（８４．１％）→中１（７３．０％）→中３（８０．０％）→高１（７５．２％）

質問４３ 「自分の学校が好きだ」（肯定的な回答の割合）

小６（８１．２％）→中１（６５．９％）→中３（７０．３％）→高１（６７．０％）

質問４９ 「学校生活全体として（どのくらい満足しているか）」

小６（８３．４％）→中１（６９．９％）→中３（７７．５％）→高１（７３．４％）

〈考 察〉

全体の傾向として、各項目共通して、小６は非常に高い数値を示しているが、中１で大きく低下する。その後、中３では上昇し、高１で下がっている。

学校生活全体についての満足度を見ると、中１、高１段階でのギャップは見られ、特に中１での満足度の低さが際だつ。これは、中１ギャップの大きさが表れていると考えられる。

中３の段階で満足度が上がることは、中学校生活に十分慣れ、さらに３年生となり、様々な場面で、積極的に活動しやすい環境が整っているからである。

カ 学校生活に関する意識-2 教科の授業に関する意識

質問１２ 「学校の授業が楽しい」

小６（７９．１％）→中１（６３．９％）→中３（５６．６％）→高１（４８．２％）

質問１３ 「学校での勉強がよくわかる」

小６（８５．８％）→中１（６８．４％）→中３（６２．８％）→高１（４３．６％）

質問４６ 「教科の授業（どのくらい満足しているか）」（肯定的な回答の割合）

小６（８６．２％）→中１（７４．４％）→中３（７６．８％）→高１（６９．０％）

〈考 察〉

教科の授業に関する質問項目における、小６から高１まで授業に関する満足度は、継続して低下傾

向にあり、特に小中学校の接続期で大きく低下する。

また、より専門性が高い高等学校においては、特に教科の授業でのギャップを感じる生徒が多い。教科の授業という観点で、なめらかな接続について、研究する価値があると考えられる。

キ 学校生活に関する意識-3 その他 特色のある項目

以下は、学校生活に関する質問項目の中から、特に取り上げたい項目についてふれる。

【学校の中の自分自身について】

質問48 「学校の中の自分自身について。」（満足であるか）（肯定的な回答の割合）

小6（76.0%）→中1（63.8%）→中3（70.5%）→高1（59.4%）

肯定的な回答の割合が、他の質問項目より低い数値を示しており、ここにも自己肯定感の低い児童生徒の姿が表れている。特に、接続期における学校の中での自分について、自尊感情が大きく低下する傾向を示している。「中1ギャップ」が数値に表れているといえる。

【部活動（クラブ活動）への意識】

質問35 「部（クラブ）活動などに意欲的に取り組んでいる。」（肯定的な回答の割合）

小6（91.2%）→中1（87.4%）→中3（74.1%）→高1（67.3%）

このことから、部活動に対して、肯定的な回答の割合は学年の段階が上がる毎に低くなる。中1（87.4%）から中3（74.1%）を迎えるにあたり、部活動への意欲的に参加する割合が1割以上低下している。中3の段階で、1／4の生徒が、部活動の中で充実感を感じていないことがわかる。

【学校生活についての充実感と満足感の違い】

質問34 「学校生活は充実している」

小6（84.9%）→中1（77.6%）→中3（77.0%）→高1（74.6%）

質問45 「学校生活全体として（満足している）」

小6（83.4%）→中1（69.9%）→中3（77.5%）→高1（73.4%）

特に、中1の回答だけが、充実している割合（77.6%）と、満足度（69.9%）の割合の差が大きい。「毎日
は充実しているが、満足しているわけではない生徒」が「中1ギャップ」の一つの形ではないかと
考えられる。

(2)「学校間の接続に関する調査研究」に係る教員対象意識調査結果より

①内容について

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会では、学校間のなめらかな接続を目指すに当たり、共通調査で行った、児童生徒の接続期における意識調査と共に、学校間の接続に係る小中学校の教員の意識について把握する必要があると考えた。

【調査対象】

平成24年度道徳教育推進教師研修会参加者である、県内東西南北事務所から推薦された道徳教育推進教師78名を対象に実施

【調査時期】

平成24年10月下旬

【調査方法及び内容】（※ 質問項目詳細は【資料5】参照）

質問紙調査（主に4択による回答方式及び自由記述）

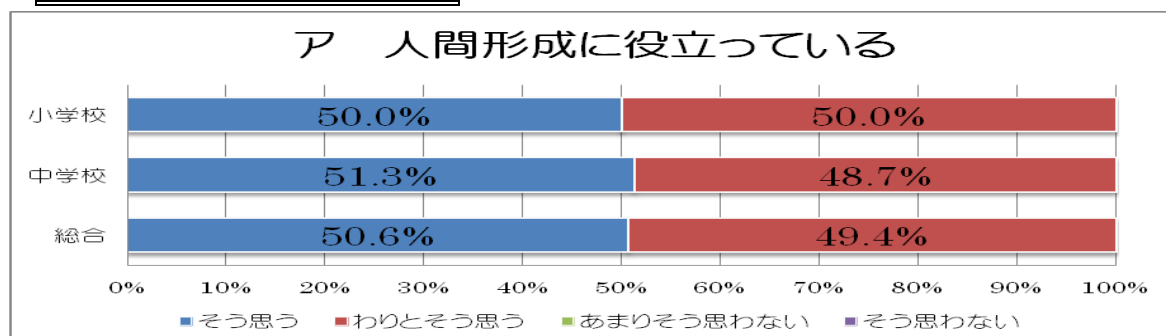
- ・「道徳の時間に関する意識について」
4択による回答方式 9問
- ・「道徳の時間の充実のための方策について」
4択による回答方式 10問
- ・「中1ギャップに関する意識について」
2択、4択による回答方式及び自由記述 3問
- ・「小・中学校の連携に関する意識について」
4択による回答方式及び自由記述他 3問

②主なアンケート結果と考察

以下に、小・中学校のなめらかな連携に密接に関係する調査項目についての結果と考察を示す。（※ 調査結果の数値等詳細は【資料6】参照）

〈道徳の時間に関する意識について〉－「道徳の時間」の有用性は高い！－

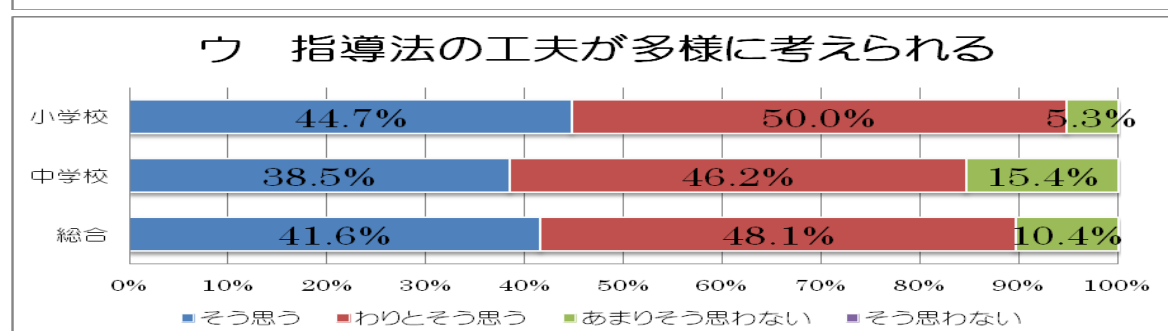
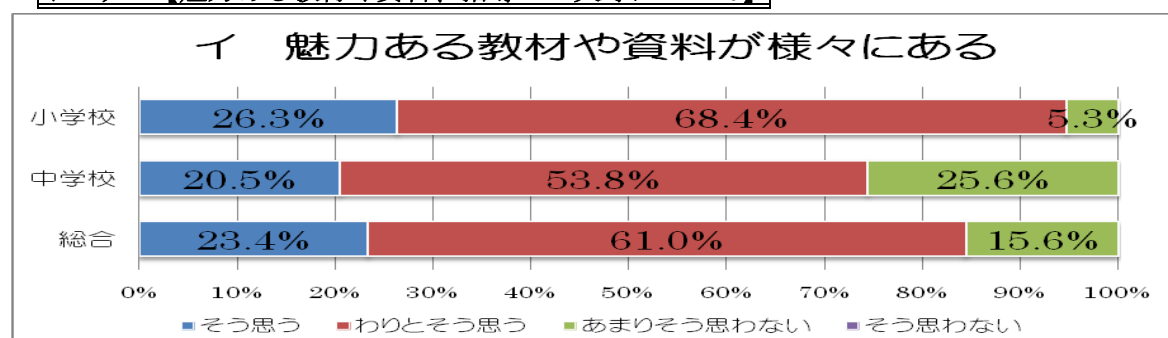
ア 【人間形成に役立っている】



「子どもの人間形成に役立っている」に対する肯定的な回答の割合は、小中共に100%である。これは、人間形成に関して道徳の時間の有用性を示していると考えられる。小中のなめらかな接続

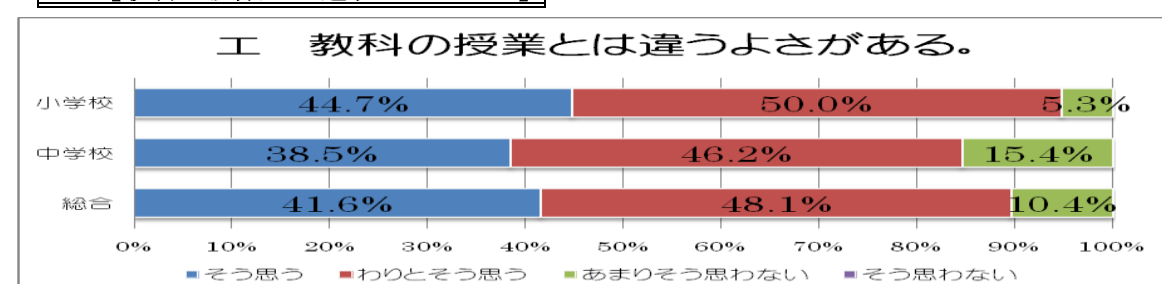
のために、道徳教育における道徳の授業の重要性を意識する教員も多い。

イ・ウ 【魅力ある教材や資料、指導の工夫等について】



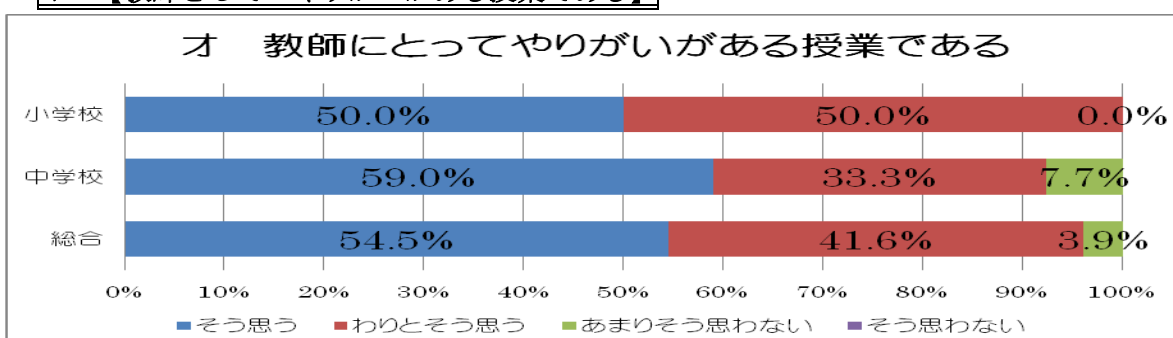
魅力ある教材、資料、指導法の工夫について、小学校ではどちらも94.7%と高い割合を示しているのに対して、中学校はそれぞれ74.3%、84.7%であり、否定的な回答がやや多い。中学生が魅力を感じる教材や資料の作成、開発が必要といえる。

エ 【教科の授業とは違うよさがある】



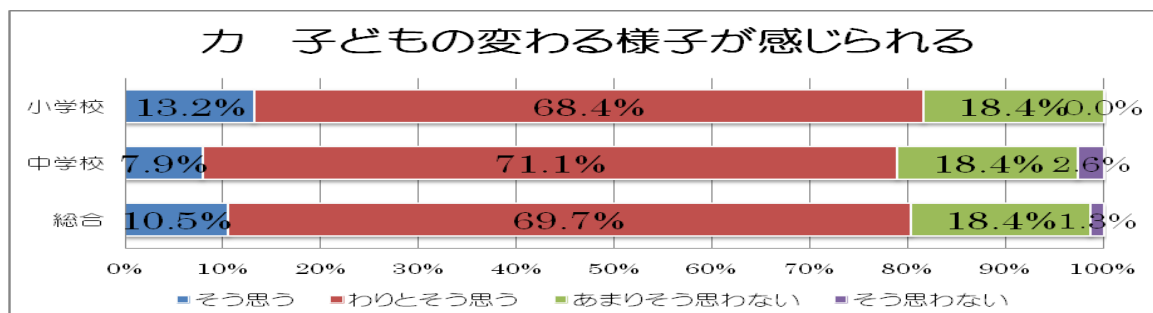
「教科の授業とは違うよさがある」についての肯定的な回答は、小学校94.7%、中学校84.6%と、いずれも高い割合であるが、中学校がやや低い割合である。中学校の教科の専門性の高さに関連があると考えられる。

オ 【教師としてのやりがいがある授業である】



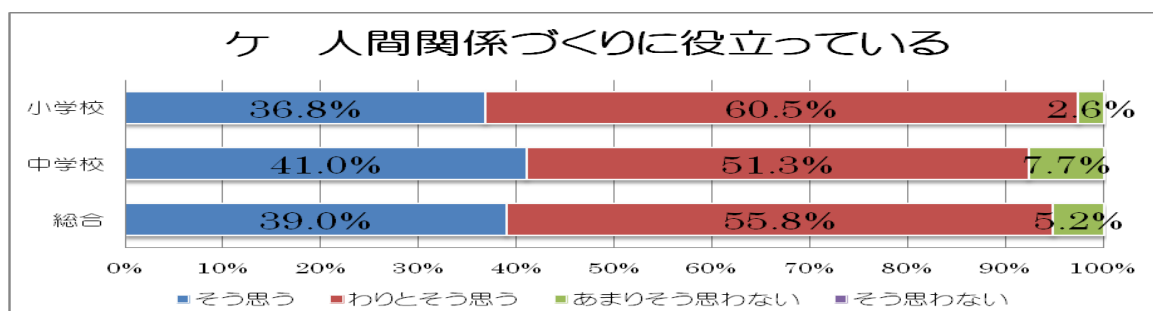
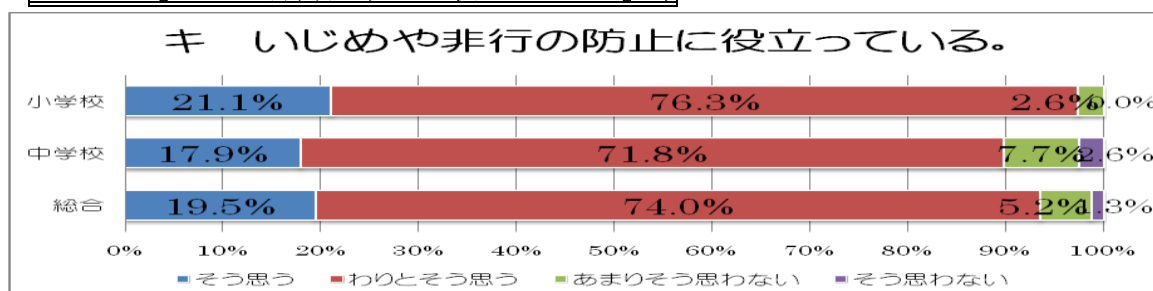
「教師としてのやりがいがある授業である」について、肯定的な回答は小学校100%、中学校92.3%と、いずれも高い割合を示した。特に「そう思う」については、小学校50.0%に対して中学校59.0%と中学校が高い割合であった。中学校の方がより強くやりがいを感じている教員がいる反面、「(やりがいを)あまり感じない」(7.7%)という否定的な回答も見られた。

カ 【子どもの変わる様子が感じられる】



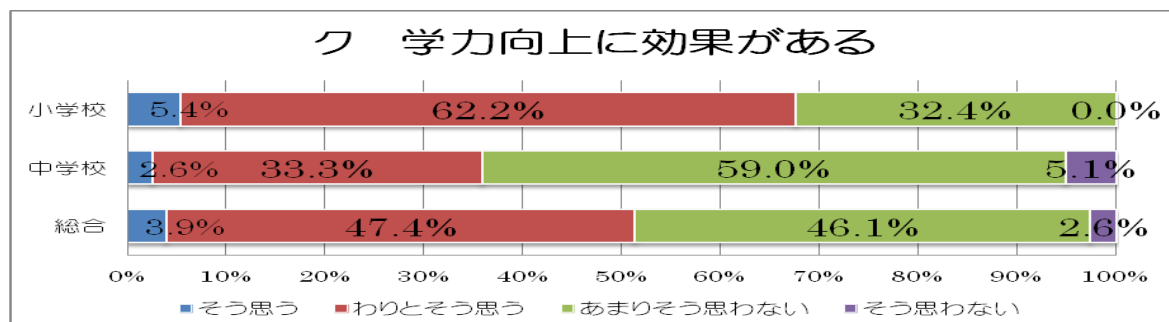
「子どもの変わる様子が感じられる」についての肯定的な回答は、小中学校共に約80%前後の割合である。約20%前後の教師が、変化をあまり感じないと捉えている。1単位時間で児童生徒の変容を目指す時間ではないが、変化を感じない要因が、授業の質と関連がある可能性も考えられる。道徳の時間の質の向上を図る必要がある。

キ・ケ 【いじめや非行の防止に役立っている】等



「いじめや非行の防止に役立っている」に対する肯定的な回答は、小97.4%、中89.7%と、小中学校共に高い割合を示している。「人間関係づくりに役立っている」に対する肯定的な回答も同様に、小97.4%、中93.3%と、高い割合を示している。今日的な課題である「いじめ問題」、「人間関係づくり」等の現状の改善に向けて、小中学校の教員は道徳の時間の充実が不可欠であると捉えている。

ク 【学力向上に対する意識】

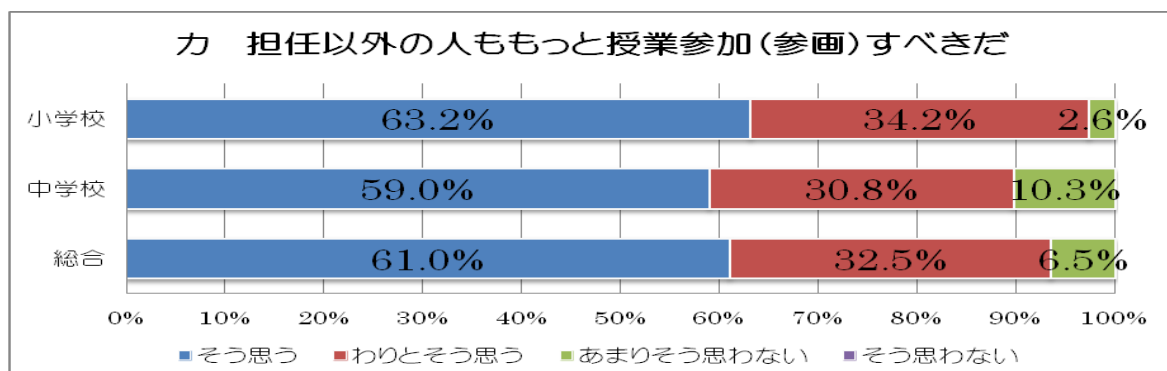


「学力向上に効果がある」に対する肯定的な回答は、小67.6%に対して、中36.9%と非常に低い。中学校では、学力向上への直接的な効果については懐疑的な回答の割合が高い。

これは、教科担任制をとっており、学習内容が難しくなってくることと、高校受験を念頭に置く必要がある中学校では、「学力向上については各教科の授業充実が第一」と考えているためと推測できる。

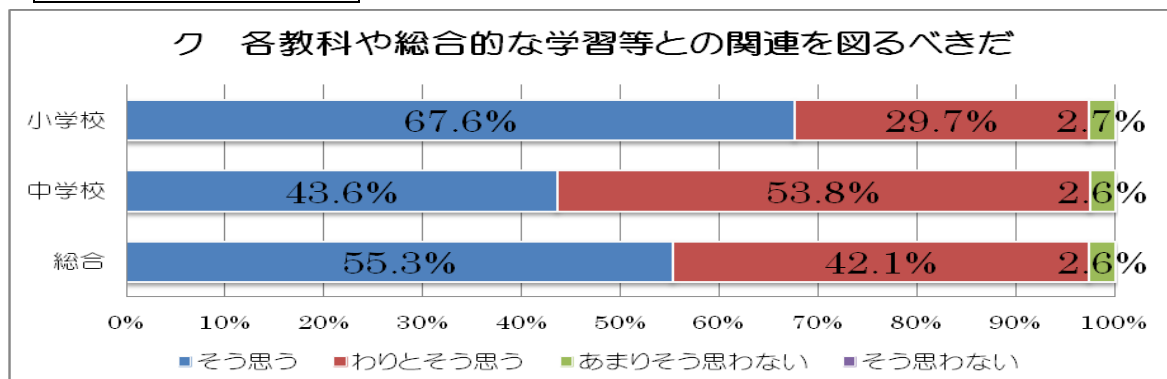
〈道徳の時間の充実のための方策について〉-もっと連携による道徳の時間を！-

カ【担任以外の授業参加（参画）】



「担任以外の人をもっと授業参加（参画）すべきだ」に対する肯定的な回答は、小学校約97%、中学校約90%と非常に高い割合となった。小・中学校の差がなく、管理職、担任外教員等から他校教員、地域の方々など、多様な人材の参加（参画）による授業の充実を望んでいることが示されている。

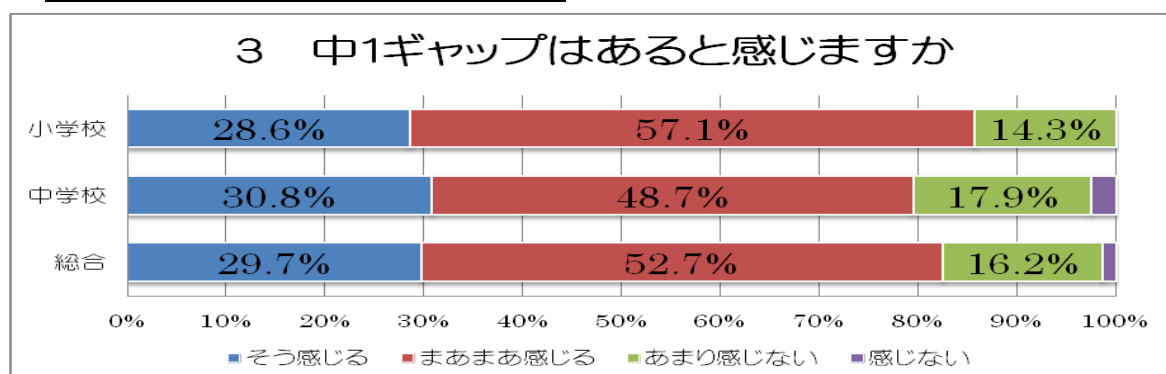
ク【教科等との関連】



「各教科や総合的な学習等との関連を図るべきだ」に対する肯定的な回答は、小中学校共に約 97% と非常に高い割合となった。小中学校の差がなく、教育活動全体を通じた道德教育の推進という視点で、要としての道德の時間の役割の重要性が改めて示されている。

〈中1ギャップに関する教員の意識について〉-小中学校間での意識の差-

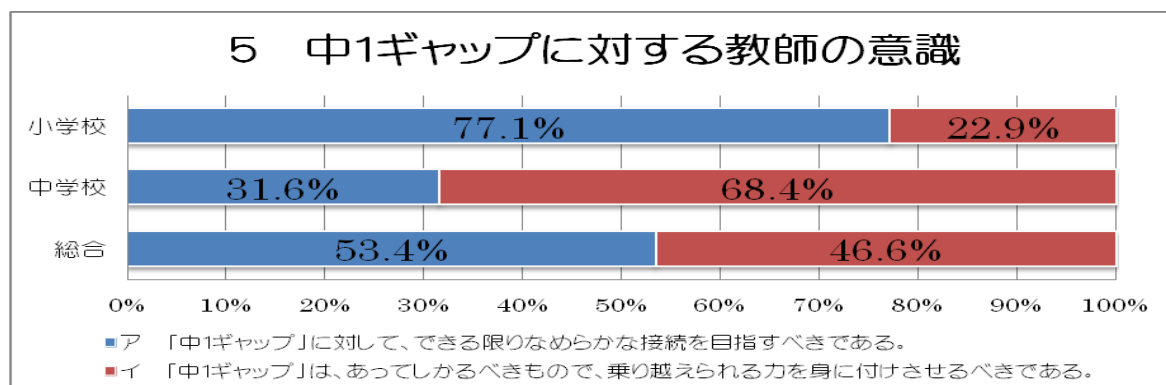
【中1ギャップはあると感じるか】



実際の児童生徒の様子から「中1ギャップ」があると感じていると回答した割合は、小学校 85% 以上、中学校が約 80% であった。小中学校ともに、「中1ギャップ」についてはあると感じている。

【中1ギャップに対する教員の意識】

しかし、「中1ギャップ」に対する意識の差は、なめらかな接続を目指す割合が小学校では 77.1% に対して、中学校では 31.6% と少なく、大きな意識の差として表れた。



小学校の教員は、できるだけなめらかな接続を目指したいと考えているのに対して、中学校は「中1ギャップ」はあってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせたい、という考えが強い傾向があると推測される。この意識の差が小中連携を進めていく上での大きな課題である。また、小学校から中学校へのスムーズな接続が求められている一方で、その障壁を乗り越える力も求められている。

「できる限りなめらかな接続」、「乗り越えられる力を身に付けさせるべき」のどちらも、大切な意識の持ち方である。小・中の教員が互いの違いを認めた上で、連携を図る必要がある。

【「中1ギャップ」の原因は、どんなことか】（自由記述より）

教師の関わり方の変化（学級担任によるきめ細かい指導から、教科担任制の専門性が高い指導や生徒の自主性を育てる指導への変化等）、環境の変化（部活動、先輩や友人との関係、校則の厳しさ等）などが要因であると指摘している。

また、「なめらかな接続を目指すべきである」を選んだ教員は、小中学校の接続期に直面する様々な変化などを要因として捉えている傾向が強く、「乗り越えられる力を身に付けさせるべきである」を選んだ教員は、児童生徒の耐性のなさや困難を乗り越える力を弱めている現在の環境を要因として捉えている傾向が強かった。

また、教師の意識の差、小・中学校での指導内容及び児童生徒の実態等の共通理解の不足が「中1ギャップ」の要因であるという指摘も多く見られた。

〈小・中学校の連携に関する意識について〉 ー連携に向けた取組充実を！ー

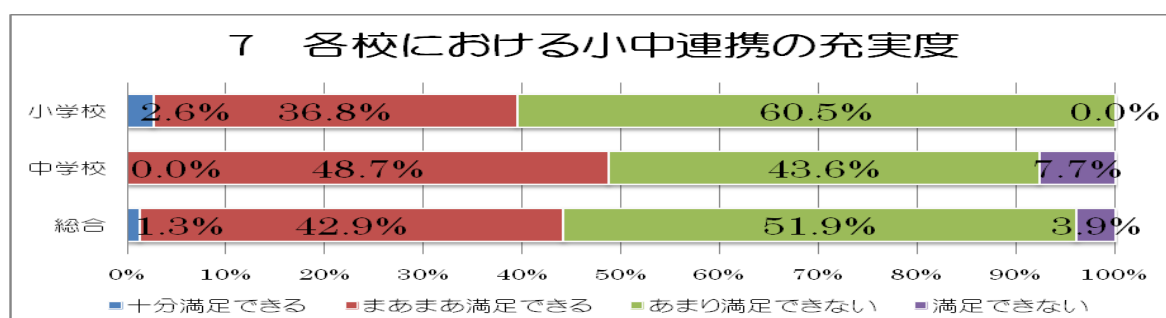
【「中1ギャップ」の原因を踏まえ、なめらかな接続のために、道徳教育でできることはどんなことか】（自由記述より）

「中1ギャップ」の具体的方策として、小中学校間の相互の授業参観（参画）の実施がもっとも多く挙げられていた。「お互いの道徳の時間を見合うこと」、「ゲストティーチャーとして授業に参加すること」、「T. T. の指導形態で授業参画まで係わること」など、様々な形での連携が道徳の時間についての共通理解と、着実な道徳の時間の実施、授業の質の向上へつながる。授業での連携以前に、まず研修会を始め、様々な形での連携の機会を設けることも多く挙げられていた。授業の充実はもちろん、児童生徒理解を深めるために、合同研修会の定期的な実施だけでなく、様々な機会積極的に教員同士の交流を図ることで共通理解を進めていく必要がある。

あわせて、児童生徒同士の小中連携の具体策として、交流活動の充実が挙げられた。学校や地域の行事等での体験活動の充実はもちろん、道徳の時間のゲストティーチャーなど授業での交流により、中学校生活についての具体的なイメージを小学生にもたせる機会を増やすことなどである。

また、思いやりや礼儀、自他を認め合うこと、公德心、基本的な生活習慣等を重点項目として道徳の授業を行うべきという意見も多く、道徳の時間の授業が「中1ギャップ」の解消につながると考えていることがうかがえる。中には、1－（2）「希望」に関しての資料を開発し、中学校生活において夢をもってがんばる気持ちを育てるという意見があった。

【各校における小中連携の充実度】



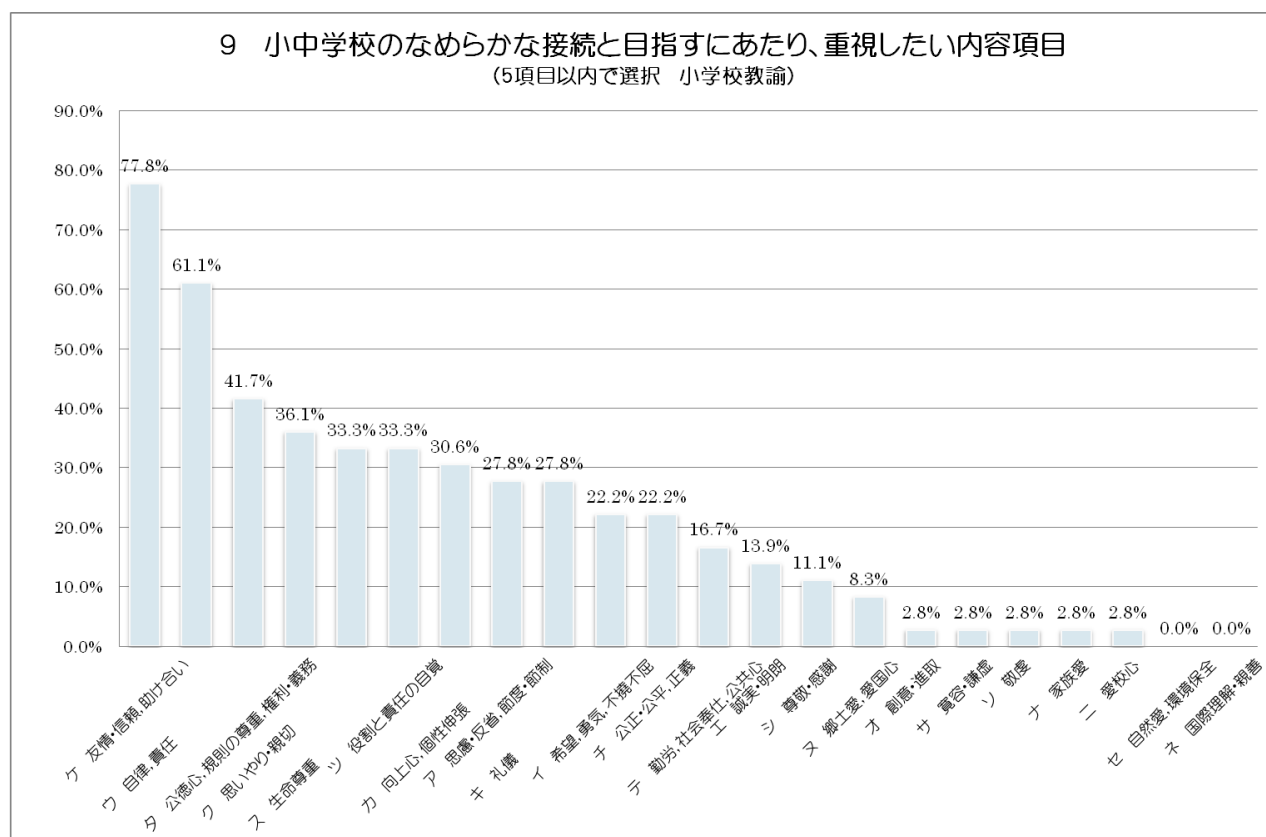
各校における小中連携の充実度について肯定的な回答は、小学校 39.5%、中学校 48.7%と非常に低い割合となった。「中1ギャップ」は存在するが、具体的な連携が十分に図れていないと推測される。

【小中連携を進める上で、課題となる(なっている)ものは何だとお考えですか。】(自由記述より)

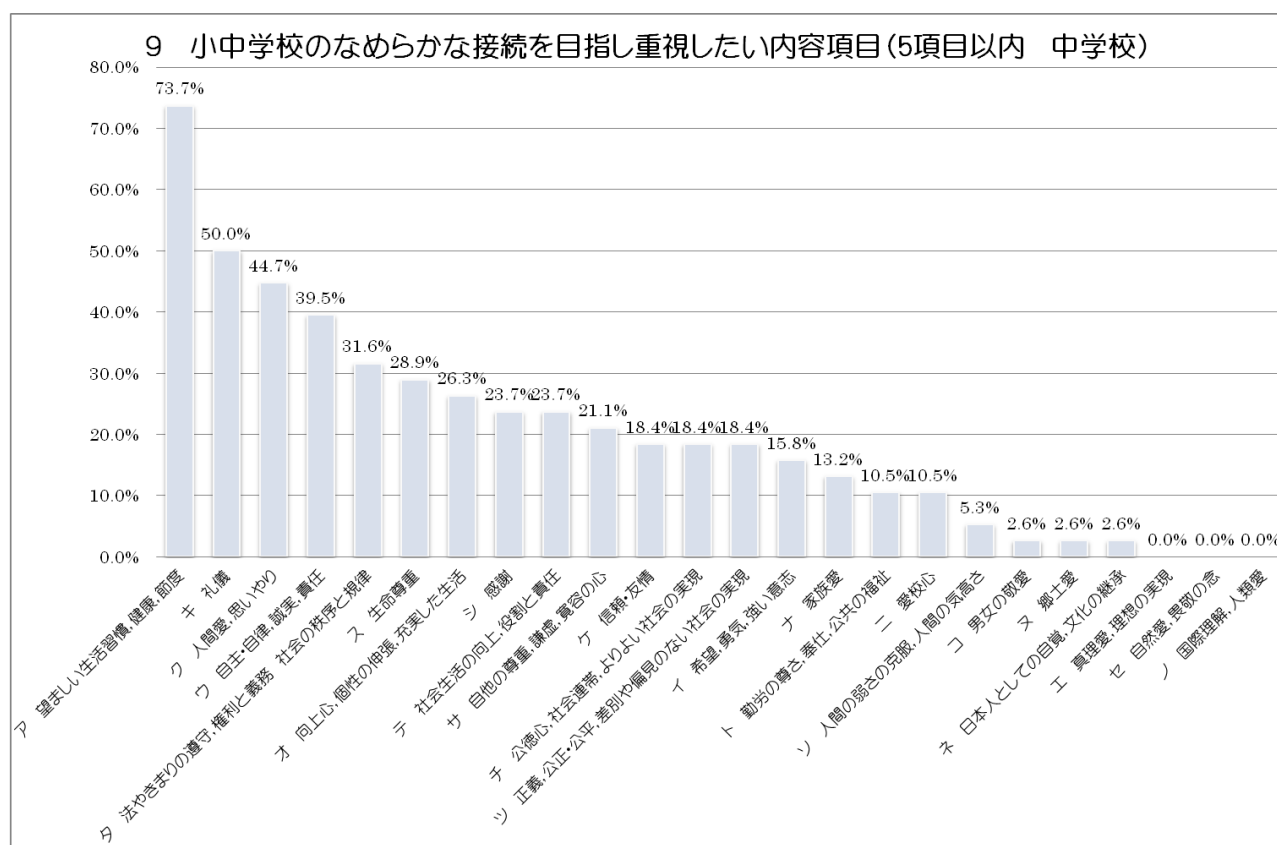
その要因として、小・中学校共に、「時間的余裕がない」、「連携する機会がない」が第一に挙げられ、そのために「教員同士の意識の違い」、「共通理解の不足」、「生徒指導、生活指導上の共通の約束事等の不足」という現状があると指摘されている。しかし、小中連携は大切であり、情報交換や話し合いをする場を持ち、お互いの教育について理解したいという意見も多い。

時間的余裕がない中でも、小中連携を進めることができるように、現在行われている各学校での教育活動を見直し、小中連携の視点から意識的に取り組んでいく必要がある。

【なめらかな接続のために重視したい内容項目】(小学校結果)



【なめらかな接続のために重視したい内容項目】（中学校結果）



8割近くの小学校教員が重視したいと答えた内容項目は、「友情・信頼・助け合い」であるが、中学校で重視したいと答えたのは約2割であった。反対に、7割以上の中学校教員が重視したいと答えた内容項目は「望ましい生活習慣、健康、節度」であるが、小学校で重視したいと答えたのは3割未満であった。「自律・責任」については、小学校で2番目に重視、中学校で4番目に重視と、共に重要視されているといえる。また、中学校では半数の教員が「礼儀」を重視したいと答えていた。

小学校では、なめらかな接続のために、2の視点である「他の人とのかかわり」を重視している傾向があるが、中学校では、まずは自分がしっかりすることを重視している傾向がある。

この調査からも、小学校教員と中学校教員で意識の差があることがうかがえる。この意識の違いをお互いに理解し、小中連携を進める必要がある。

(3) 小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習モデルプラン

ー学校間の接続に係る総合的、横断的な道徳学習モデルプランの作成ー【資料1・2】

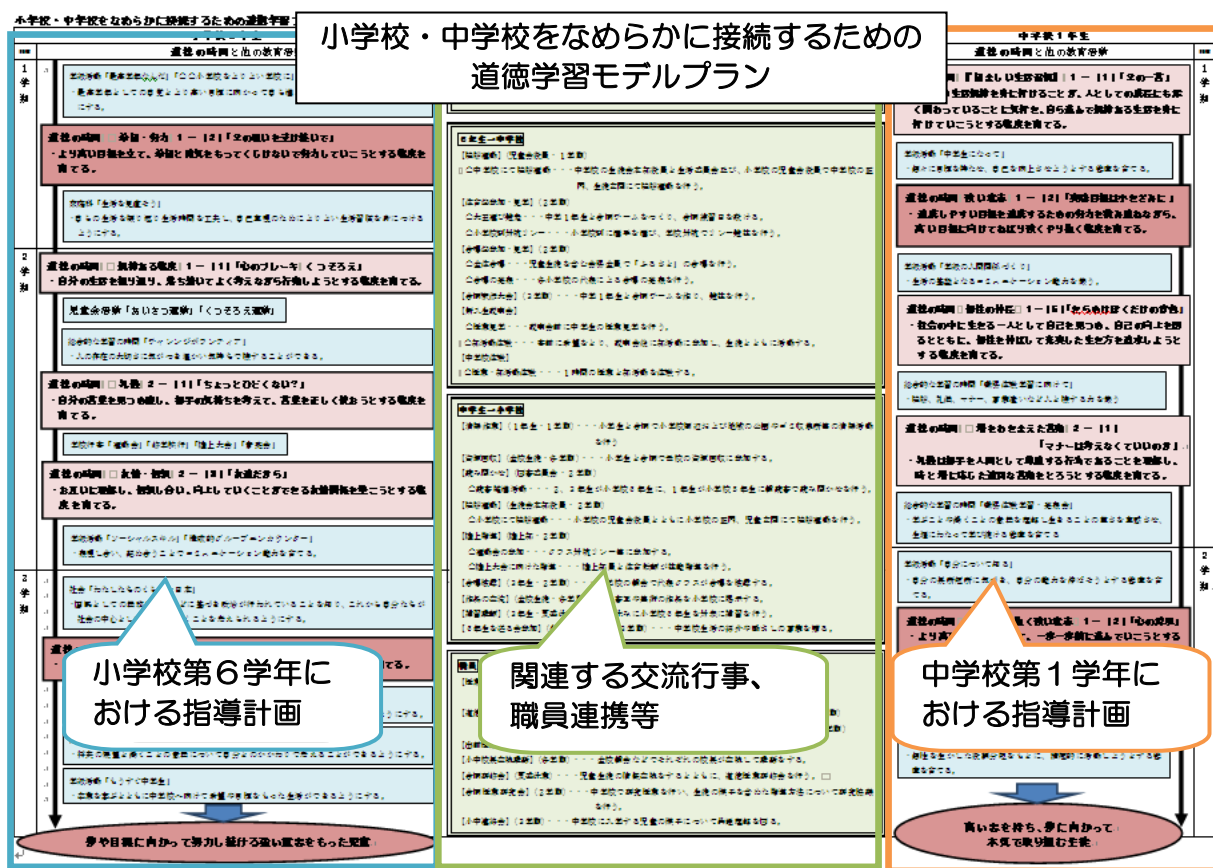
① モデルプラン作成にあたり

小学校第6学年1学期から中学校第1学年2学期までを接続期として、教科横断的に1つの指導計画にまとめ、関連させる指導により、小中学校連携による（中学校区単位で）教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進を図るためのモデルになるプランとする。

各小中学校においては、学校間連携を進めるに当たり、モデルの1つとして活用することを想定する。あわせて、モデルプラン枠（【資料2】）を使用し、自校の接続期における教育活動について、なめらかな接続という観点で、整理、検討、改善を図るためのツールとなることを想定している。

② モデルプランの構成について

小中学校の接続期における道徳学習モデルプランは、「小学校第6学年における指導計画」「中学校第1学年における指導計画」、「関連する交流行事、職員連携等」の3つの内容で構成した。（※ 下図及び【資料1】参照）



ア「小学校第6学年における指導計画」

「小学校第6学年における指導計画」は、目指す児童像を「夢や目標に向かって努力し続ける強い意志をもった児童」として、内容項目1－（2）「希望・勇気・努力」を重点項目として設定する。道徳の時間を要として、各教科、特別活動等教育活動全体を通じた道徳教育推進を目指し、各教育活動が有機的に関連させることを意識した指導計画にまとめた。

イ「中学校第1学年における指導計画」

同様に「中学校第1学年における指導計画」は、中学校1年生（1・2学期）における指導計画として、目指す生徒像を「高い志をもち、夢に向かって本気で取り組む生徒」として

内容項目 1－(2)「希望・勇気・強い意志」を重点項目として設定する。道徳の時間を要として、各教科、特別活動等全教育活動を通した道徳教育推進を目指し、各教育活動が有機的に関連させることを意識した指導計画にまとめた。

ウ「関連する交流行事、職員連携等」

「関連する交流行事、職員連携等」について、教員の意識のギャップの解消を図るために、小学校教員、中学校教員の立場から、具体的にどのような取組が考えられるかをまとめたものである。

連携に係る具体的取組を、「小中共通の取組(例)」「6年生が中学校で体験する具体的取組(例)」「中学生が小学校で体験する具体的取組(例)」「職員連携に係る取組(例)」の4つに分けて整理して示している。

モデルプランには、多様な取組例を提示する。各校でプランを活用する際には、自校の取組と比較検討を行い、地域や学校、児童生徒等の実態にあった連携内容を、自校の取組として設定する。

③ 学期毎の具体的な諸活動についての詳細（プラン内容の設定理由）

小学校第6学年1学期～3学期における計画

ア 小学校第6学年 1学期

○道徳の時間に扱う内容項目について

・ 1－(2)

「希望・勇気・努力」は、本研究において重点内容項目となり、ギャップを乗り越えるために必要とされる大きな価値観であるため、まず1年の始めに取り扱う。小学校生活最後の1年としての充実はもちろん、将来を見越した大きな展望を持たせるために設定する。

○各教科、総合的な学習の時間及び特別活動

・ 学級活動

最高学年としての1年の始めに際し、自覚をもって目標を決め、それに向かって努力していく強い気持ちを育むことを意識して設定する。

・ 家庭科

自己決定した目標に向かって努力している自分を振り返り、よりよい生活にしていけるための工夫を考え、よりよい生活習慣を身に付けることがその大きな一歩であることを考えさせる。

イ 小学校第6学年 2学期

○道徳の時間に扱う内容項目について

・ 1－(1)、2－(1)

「基本的な生活習慣」と「礼儀」は、アンケート等によると中学校で重視したい内容項目であり、小学校の段階においてもしっかりとおさえていることを伝える。また、1学期の道徳の時間等の内容を受け、希望と勇気をもって努力していく上で基本的な生活習慣の確立は欠かせないものであると考えた。最高学年として、学校の代表として校外でも活動する6年生としての自覚を深めるためにも「礼儀」は大切な内容項目である。

・ 2－(3)

「友情」は、アンケート等の結果によると小学校で重視したい内容項目である。2学期後半に本当の友情について考えさせ、将来にわたって高め合い、信じ合える友人関係の構築へつなげさせる。

○各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導内容について

・ 総合的な学習の時間

人と接するときのマナーについて改めて考え、言葉遣いや立ち振る舞いなどの大切さを考えさせることで、「礼儀」に込められた心に気付かせる。

・ 学級活動

信頼できる友だちとは何かを考え、友だち関係をどのように構築していくかについてや、関係を築く上で何が大切なのかを実感させる。

ウ 小学校第6学年 3学期

○道徳の時間に扱う内容項目について

・ 1－(2)

本研究の重点内容項目である「希望・勇気・努力」を多くの児童がいよいよ中学校に向かうという意識をもつであろう3学期に配置した。

○各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導内容について

・ 社会、体育、総合的な学習の時間、学級活動

各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導内容を道徳の時間で補充、深化、統合していく。諸活動を通して、道徳の時間に取り上げた「希望・勇気・努力」について、改めて意識させることにより、中1ギャップを自らの意志で乗り越えるための準備をさせることへつなげる。

エ 小学校第6学年の児童が中学校で体験する交流行事

・ 挨拶運動

中学校に出向き、中学生と一緒に活動することで、中学校をより身近に感じることができると考えた。また、中学生から挨拶をしてもらうことで、不安を解消することができる。

・ 体育祭

先輩になる中学生と同じチームで競技をすることで、コミュニケーションの機会が増え、親しみがわく。中学校が、自分にとっての母校になるという意識が生まれ、連帯感をもって力を尽くすきっかけになると考えられる。

・ 合唱祭

同様に、中学生と一緒に歌うことで中学生とふれあう機会が増える。

・ 授業体験、部活動体験

意識調査等によると、中学校での授業と部活動に対して多くの児童生徒が不安を感じている。実際に体験することで、中学校の生活を知る大きな機会となり、数か月後の自分の姿を想像することができるようになり、不安の解消へとつながると考えられる。

中学校第1学年1学期～2学期における計画

ア 中学校第1学年 1学期

○道徳の時間に扱う内容項目について

・ 1－(2)

「強い意志」は、重点内容項目の中心項目として位置づけている内容項目であるため、4月に道徳の時間で取り上げる。授業の中の「自己の振り返り」の場面において、個人目標の設定、及び取組状況を交えて振り返りをさせる。

・ 1－(1)、2－(1)

中学校教員意識調査結果より、中学1年生の時期に重視したい内容項目は1－(1)の「望ましい生活習慣」と、2－(1)の「礼儀」であることがわかった。そのため、1学期中にこの2つの内容項目は、道徳の時間に取り上げておく。

・ 1－(5)

自己肯定感をはぐくむためには、自己を見つめ、自己の向上を図ることについて、深く考える必要がある。そのため、1学期の早い時期に、1－(5)を道徳の時間で取り上げておく。

○各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導内容について

・ 学級活動

4月に自己の向上のために個人目標を設定させ、その後、1－(2)を扱った道徳の時間の中で「自己の振り返り」場面で、この目標を活用する。また、「人間関係づくり」の学習計画は4～5月に設定し、自己肯定感をはぐくむためのコミュニケーション能力を養う。

・ 総合的な学習の時間…7月に「職場体験学習」を実施する場合

「職場体験学習」に向けた学習計画で、礼儀やマナーを学ぶ時間を設定する。その後、道徳の時間に2－(1)を扱った授業を実施し、「職場体験学習」にて実体験させる。

イ 中学校第1学年 2学期

○道徳の時間に扱う内容項目について

・ 1－(2)

夏休みが終わると、4月に立てた目標を見失いかけたり、挫折してしまったりする生徒が出てくる。また、体育祭や合唱祭等では、学級単位の目標に向かって取り組み始める時期になる。9月にもう一度、「強い意志」をはぐくむ1－(2)を扱った道徳の授業を実施し、体育祭や合唱祭へとつなげていく。

・ 1－(3)

2学期に実施される体育祭や合唱祭等では、学級の中で、互いに助け合いながら目標を達成させるための取組を行う。そのため、体育祭、もしくは合唱祭に向けて、2－(2)の「思いやりの心」等について考えることはもちろん、自律的な道徳性がはぐくまれるこの時期、周りの言動にとらわれず、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすか、ということまで深く考えられなければいけない。そのために、1－(3)の「自主・自律」の内容項目を取り上げた道徳の授業を実施していく。

○各教科、総合的な学習の時間及び特別活動の指導内容について

・ 学級活動

夏休みを終えて、個人目標を見直していく中で、今の自分の長所や短所を確認し、自分の

能力を伸ばしていこうとする態度を育てる必要がある。そのため、「自分について知る」学習活動を実施する。また、体育祭や合唱祭に向けた取組をしていく学級活動で、個性を生かした役割分担が必要である。そのために、役割分担をもとに積極的に活動しようとする態度を育てていく。

ウ 中学校の生徒が小学校で体験する交流行事

中学生が、小学生の目標となる自分の姿を作りあげていく過程で、母校の先生や小学生との交流行事を経験していくことで、中学生の自己肯定感をはぐくむことができる。主な交流行事は下記の通りである。

・清掃作業、資源回収

1年生が1学期のうちに、6年生と合同で清掃活動を行ったり、小中の合同資源回収として、回収や仕分け作業を6年生と合同で行ったりする。そうすることで、6年生に「先輩」という意識を早いうちから抱かせ、中学校での諸活動においても、自信を持って取り組ませることができる。

・読み聞かせ

図書委員会の2，3年生の活動として、小学校6年生への読み聞かせを行うことで、6年生に目標となる中学生の姿を意識させることができる。また、小学校5年生は、1年生の図書委員が読み聞かせを行うことにより、最高学年になる直前の時期に、中学生の姿を意識させる。

・挨拶運動

中学生のリーダーである生徒会本部役員が、小学校にて挨拶運動を行うことで、小学生全体に模範となる中学生の姿を示すことができる。

エ 小・中学校の教員による交流行事

小中学校間のなめらかな接続を目指すには、小・中学校の教員同士が、道徳の授業に関する交流を進めていくのと同時に、相互に児童生徒の共通理解をしていく必要がある。主な交流行事は下記の通りである。

・道徳の授業に関する交流

1学期に、小学校教員が中学校を訪問し、1年生の道徳の授業参観を行う。1年生の早い時期に道徳の授業の様子を見ることで、小学生の時期とは違った生徒の様子について情報交換をすることができる。

2学期には、中学校教員が小学校を訪問し、6年生の道徳の授業参観を行う。6年生の最高学年としての意識ができてきている2学期の道徳の授業の様子を見ることで、6年生の状況の共通理解を早い時期から始めることができる。また、小学校職員が中学校の1年生の道徳の時間に、ゲストティーチャーとして入ることで、中学生としての意識が定着しつつある1年生の自己肯定感を、さらに高めていくことができる。

3学期に、中学校教員が6年生の道徳の時間に、ゲストティーチャーとして入ることで、6年生に中学校の生活を意識させることができる。また、6年生の道徳の授業を中学校教員が出前授業として実施すると、6年生に中学校の授業を意識させることができる。

(4) 小中学校の接続期における道徳の時間の授業例の作成

道徳の時間の充実の視点で（道徳の時間の特質：「要」としての道徳の時間）

小中学校の接続期における児童生徒の自己肯定感、自尊感情を育成するために、内容項目 1－

(2)「希望・勇気・努力」をねらいとする道徳の時間の指導例を示す。

①授業例作成に当たり

・自尊感情の低下傾向が強く見られる小中学校の接続期における児童生徒が、道徳の時間の話し合いを通して、誰でも同じように不安を抱えていることに共感し合い、夢や希望、目標に向かって努力することの価値等について、改めて友達同士で話し合う中で、そのすばらしさに気づき、自尊感情、自己肯定感の育成につなげていく授業例を提示する。

・「小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習モデルプラン」の中へ具体的に位置づけ、道徳の時間の特質である、教育活動全体で行われる道徳教育の「要」として機能することをねらう。

②授業例に係る授業実施日 等

【中学校】 11月 5日(月) 川口市立榛松中学校 1年3組

主題名 着実にやり抜く強い意志 内容項目 1－(2)希望・勇気・強い意志

資料名 「心の涼風」

出典：彩の国の道徳 中学校「自分を見つめて」埼玉県教育委員会

ねらい：より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。

【小学校】 11月 27日(火) 川口市立仲町小学校 6年3組

主題名 自分の目標に向かって 内容項目 1－(2)希望・勇気・努力

資料名 「道ひとすじに ―日本最初の公認女性医師 荻野吟子―」

出典：彩の国の道徳 小学校高学年「夢にむかって」埼玉県教育委員会

ねらい：希望をもち続け、くじけずに努力して自らの課題に立ち向かおうとする意欲を育てる。

③授業例の詳細等

※ 別添授業例（【資料 3・4】） 参照

なお、吹き出しで、小・中学校間のなめらかな連携に係る視点での配慮事項等を示す。

④授業例作成の意図及び授業後の児童生徒の反応 等

ア〈中学校第1学年授業例について〉【資料 3】

小・中学校間のなめらかな連携に係る授業例作成の意図

○この資料は、生徒にとって同質性の高い資料であり、各自の体験やこれから予想される生活を重ね合わせて考えさせることにより、よりよい自分の生き方を求めて、どのように判断したり、どんな心構えをもつことがよいかを自分自身の切実な問題として自覚を深めさせることができると考えるため。

○中学生になると自分の思い通りにならないことがあるとわかってくる。安易な方向へ流されていくのではなく、今までの努力やこれからの人生を考えると、思い通りにならなくても一步一步努力して前進していくことが大切だと考えさせたいため。

○小学校から中学校へと環境が変わり、誰もが抱える不安な気持ちが資料と重なる。しかし、現在の努力は決して無駄ではない。失敗は成長への過程。過程が大切と考えさせたいため。



授業後の生徒の反応等

内容項目 1－（２）の関連で自分の生きかたについて見つめる生徒の反応

- ・くじけそうになったりしても、あきらめない、頑張る、この２つを忘れないで今後の自分の生活を変えてゆきたい。
- ・落ち込んでしまうことはあると思うけど、結果がだめでも何度だって立ち上がって頑張りたい。
- ・自分もこのような経験があった。今日は前に進んでいくことを学びました。
- ・私もあきらめようとしたことはたくさんありました。あきらめてしまった時もあったので、絶対にあきらめたらいけないと、改めて思いました。
- ・自分の目標に向かって逃げないことが大切だと思います。私も自分の立てた目標をあきらめずに、目標に向かって進んでいきたいと思いました。

イ〈小学校第 6 学年授業例について〉【資料 4】

小・中学校間のなめらかな連携に係る授業例作成の意図

- 思い通りにいかないことがあるという人生の厳しさに気づき、それでも乗り越えていく主人公の強さに触れることで、中学校生活の環境の変化を自らの意思で切り開いていこうとする意欲を育てることが必要と考えたため。
- 小学校を卒業し、中学校へ入学する節目の時期を迎え、将来への希望をもつと同時に新たな環境を前にして不安を抱える児童が多くいるため。



授業後の児童の反応等

身近な生活と内容項目 1－（２）とのつながりを感じている児童の反応

- ・あきらめずに努力するということは、どんなことにも当てはまること。
- ・面倒でやるべきことをやらない時があるが、どんなことでも努力を続ければ、必ず結果はついてくると感じた。
- ・『あきらめない』という言葉、今の生活に生かしていきたい。
- ・あきらめずに何回も挑戦して努力していれば、必ず報われると思えた。まずは目の前の一つ一つに集中していきたい。」 等

主人公の生き方に共感し、強い生き方に憧れを感じていると思われる児童の反応

- ・『あきらめない』ということをもまずは考えたい。
- ・あきらめなければ“日本初”のこともできる。
- ・あきらめずにがんばったら、もしかしたらできると思えた。
- ・反対されながらも努力していくような強いところを参考にしたい。
- ・自信をなくしてもうやめようかと思っていた。吟子さんはあきらめなかった。ぼくもあきらめずに続けていこうと思えた。 等

5 成果と課題 ―平成 24 年度各取組の成果と課題（来年度の展望）―

（1）児童生徒共通意識調査結果等より道徳の時間の充実へ【成果①】

- ・小学校 6 年、中 1、中 3、高 1 と学年の段階が上がるに従い、各質問項目に対して、肯定的な回答の割合が低下する。特に小中学校の接続期（小 6 → 中 1）において、肯定的な回答の割合が大きく低下する項目が多い。やはり、児童生徒の中の「中 1 ギャップ」が数値として表れている。
- ・小中学校の接続期（小 6 → 中 1）において、特に自尊感情、自己肯定感を問う質問項目の回答では、低下傾向が強く表れた。

【意識調査に見られる、接続期における「中 1 ギャップ」の様々な形】

- ・自尊感情、自己肯定感の低さ（「良いところがたくさんある」「自分に満足している」等の低下傾向、自分で乗り越えられない、自分に対して自信がない児童生徒）
- ・失敗に対する不安感（「失敗ばかりしている」、「役に立たない人間だと思ふことがある」の増加傾向 → しかし、成功体験を求めている児童生徒）、
- ・中学校での新たな環境への不安感（「学校生活は恵まれた環境である」、「自分の学校が好きだ」、「学校生活全体に満足している」等の数値の大きな低下傾向）
- ・目標意識の低下、目標を見失う傾向（→しかし、目標は持ちたい児童生徒！）
- ・友だち関係への不安感の低下傾向（→しかし、友だちに対する思いは強い！）

児童生徒の
中 1 ギャップが
様々な形で！
→道徳の取組で

- ・自己肯定感が低下していく児童生徒の実態をふまえて、道徳の時間等の具体的な取組の必要性が確認できた。

- ・接続期の児童生徒の実態を踏まえて、道徳学習モデルプランと内容項目 1 - (2)「希望・努力」に係る授業例の作成へとつなげた。

1-(2)を重点項目とし、
児童生徒の自尊感情を！

（2）教員向け意識調査結果等よりモデルプランへ【成果②】

- ・小中学校教員間で接続期での意識に大きな差（教員間の「中 1 ギャップ」）があるといえる。

中 1 ギャップ
は...

「できるだけなめらかな接続を！」（小 70% 中 30%）

「あつてしかるべき。乗り越える力を！」（小 30% 中 70%）

小中の教員間の
中 1 ギャップ！

- ・一因として、小中学校相互の教育活動への理解不足、道徳の時間での取組等の理解の不足があり、あわせて共通理解を図るための機会、時間等の不足が挙げられた。

- ・教員の意識の違い（ギャップ）解消のための具体的な方策として、各校での小中学校間の接続を図る際のモデルプランを提示できた。

ギャップを解消し、
小中連携を推進するための
モデルプラン！

【小学校・中学校をなめらかに接続するための道徳学習モデルプランの役割等】

- ・児童生徒の実態に即した重点項目を設定 → 自尊感情、自己肯定感の育成へ 1 - (2)
- ・小中学校の教員が共通理解を図るためのモデルとしての役割 → 小中学校相互の教育活動理解へ
- ・道徳教育による小中学校の連携のモデルとしての役割 → 道徳教育での連携への取組理解へ
- ・多様な活用例の提示とプラン枠により 各校で活用できるツール

→中学校区での活用、共通理解の機会、時間の確保へ

（３）モデルプラン等の有用性の検討へ【課題】

- ・自尊感情、自己肯定感の育成を念頭に、内容項目１－（２）「希望・努力」を重点項目とする「小中学校の接続期における道徳学習モデルプラン」と、小中学校の接続期における、自尊感情、自己肯定感をはぐくむための授業例（小学校第６学年、中学校第１学年）を提示したが、今後モデルプラン等の有用性について、実際に活用する機会を設定し、検討、改善を図る必要がある。
- ・接続期でのなめらかな接続を目指すにあたり、今回示した内容項目１－（２）以外の道徳の時間の授業例も検討する必要がある。
- ・道徳に係る研修等で実際にモデルプラン等を活用する機会を設定し、有用性と改善への方向性等を検討する必要がある。

６ おわり

道徳教育の目標に示されているように、学校における道徳教育は道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、(外国語活動、)総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達段階を考慮して、適切に指導を行わなければならない。

この教育活動全体を通して、共通理解のもと、学校全体で取り組めるよさは、道徳教育の特質の一つである。教科担任による指導体制をとる中学校においては、学校全体で、特定の教科を中心にした学校研究を推進することが難しいが、道徳教育、道徳の時間についての研究は、共通の方針で取り組み、成果として教師自身の資質向上と生徒の健やかな成長を共有することができる。学校間連携による道徳教育の推進も同様である。道徳教育の連続性、一貫性の観点から、共通の方針で小中学校が連携して取り組むことにより、家庭、地域社会を巻き込んで中学校区を一つにまとめることにつながる。

今後も平成２４年度の研究内容をもとに、道徳教育及び道徳の時間の特質を生かした小中学校のなめらかな接続を目指して研究を進める。

参考文献 等

- ・「小学校学習指導要領解説 道徳編」 (平成２０年８月 文科省)
- ・「中学校学習指導要領解説 道徳編」 (平成２０年９月 文科省)
- ・「埼玉県小・中学校教育課程編成要領」 (平成２１年３月 県教委)
- ・「埼玉県小・中学校教育課程指導資料」 (平成２２年３月 県教委)
- ・「埼玉県小・中学校教育課程評価資料」 (平成２３年３月 県教委)
- ・「埼玉県小・中学校教育課程実践事例集」 (平成２４年３月 県教委)
- ・「彩の国の道徳 教師用指導資料」 (平成２２年２月 県教委)

資料

- ・【資料１】 小学校・中学校をなめらかに接続するために道徳学習プラン（モデルプラン）
- ・【資料２】 モデルプラン枠
- ・【資料３】 中学校第１学年授業例 内容項目１-(2)
- ・【資料４】 小学校第６学年授業例 内容項目１-(2)
- ・【資料５】 小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査用紙
- ・【資料６】 小中学校間の接続に係る小中学校の教員の意識調査結果

小学校6年生		関連する交流行事、職員連携等	中学校1年生				
時期	道徳の時間と他の教育活動		道徳の時間と他の教育活動				
1 学 期	学級活動「最高学年なんだ」「〇〇小学校をよりよい学校に」 ・最高学年としての自覚とより高い目標に向かって自ら進んで努力し明るく生活できるようにする。 道徳の時間 希望・努力 1ー（2）「父の思いを受け継いで」 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。 家庭科「生活を見直そう」 ・自らの生活を振り返り生活時間を工夫し、自己実現のためによりよい生活習慣を身につけるようにする。		小中共通の取り組み ・埼玉県教育に関する3つの達成目標の規律ある態度の徹底 ・小学校中学校共通の学習規律、生活の約束の確認 6年生→中学校 【挨拶運動】（児童会役員・1学期） ○中学校にて挨拶運動・・・中学校の生徒会本部役員と生活委員会及び、小学校の児童会役員で中学校の正門、生徒玄関にて挨拶運動を行う。 【体育祭参加・見学】（2学期） ○大玉運び競走・・・中学1年生と合同チームをつくり、合同練習日を設ける。 ○小学校別対抗リレー・・・小学校別に選手を選び、学校対抗でリレー競技を行う。 【合唱祭参加・見学】（2学期） ○全体合唱・・・児童生徒を含む会場全員で「ふるさと」の合唱を行う。 ○合唱の発表・・・各小学校の代表による合唱の発表を行う。 【合同駅伝大会】（3学期）・・・中学1年生と合同チームを作り、競技を行う。 【新入生説明会】 ○授業見学・・・説明会前に中学生の授業見学を行う。 ○部活動体験・・・事前に希望をとり、説明会後に部活動に参加し、生徒とともに活動する。 【中学校体験】 ○授業・部活動体験・・・1時間の授業と部活動を体験する。		道徳の時間 『望ましい生活習慣』 1ー（1）「父の一言」 ・望ましい生活規律を身に付けることが、人としての成長にも深く関わっていることに気づき、自ら進んで規律ある生活を身に付けていこうとする態度を育てる。 学級活動「中学生になって」 ・個々に目標を持たせ、自己を向上させようとする態度を育てる。 道徳の時間 強い意志 1ー（2）「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。 学級活動「学級の人間関係づくり」 ・生活の基盤となるコミュニケーション能力を養う。 道徳の時間 個性の伸長 1ー（5）「きらめけぼくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。 総合的な学習の時間「職場体験学習に向けて」 ・挨拶、礼儀、マナー、言葉遣いなど人と接する力を養う 道徳の時間 場をわきまえた言動 2ー（1） 「マナーは考えなくていいのか」 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。 総合的な学習の時間「職場体験学習・発表会」 ・学ぶことや働くことの意義を理解し生きることの尊さを実感させ、生涯にわたって学び続ける態度を育てる 学級活動「自分について知る」 ・自分の長所短所に気づき、自分の能力を伸ばそうとする態度を育てる。 道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1ー（2）「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。 道徳の時間 自主・自律 1ー（3） 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。 学級活動「体育祭、合唱祭に向けて」 ・個性を生かした役割分担をもとに、積極的に活動しようとする態度を育てる。 高い志を持ち、夢に向かって 本気で取り組む生徒		
	2 学 期	道徳の時間 規律ある態度 1ー（1）「心のブレーキ くつつそえ」 ・自分の生活を振り返り、落ち着いてよく考えながら行動しようとする態度を育てる。 児童会活動「あいさつ運動」「くつつそえ運動」 総合的な学習の時間「チャレンジボランティア」 ・人の存在の大切さに気がつき温かい気持ちで接することができる。 道徳の時間 礼儀 2ー（1）「ちょっとひどくない？」 ・自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えて、言葉を正しく使おうとする態度を育てる。 学校行事「運動会」「修学旅行」「陸上大会」「音楽会」 道徳の時間 友情・信頼 2ー（3）「友達だから」 ・お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする態度を育てる。 学級活動「ソーシャルスキル」「構成的グループエンカウンター」 ・表現し合い、認め合うことでコミュニケーション能力を育てる。		中学生→小学校 【清掃作業】（1年生・1学期）・・・小学生と合同で小学校周辺および地域の公園やゴミ収集所等の清掃活動を行う 【資源回収】（全校生徒・各学期）・・・小学生と合同で母校の資源回収に参加する。 【読み聞かせ】（図書委員会・2学期） ○読書推進活動・・・2、3年生が小学校6年生に、1年生が小学校5年生に朝読書で読み聞かせを行う。 【挨拶運動】（生徒会本部役員・2学期） ○小学校にて挨拶運動・・・小学校の児童会役員とともに小学校の正門、児童玄関にて挨拶運動を行う。 【陸上指導】（陸上部・2学期） ○運動会の参加・・・クラス対抗リレー等に参加する。 ○陸上大会に向けた指導・・・陸上部員と体育教師が技能指導を行う。 【合唱披露】（3年生・2学期）・・・小学校の朝会で代表クラスが合唱を披露する。 【作品の交流】（全校生徒・各学期）・・・書写や美術の作品を小学校に掲示する。 【補習講師】（2・3年生希望者・夏季休業）・・・夏休みに小学校6年生を対象に補習を行う。 【6年生を送る会参加】（生徒会本部役員・3学期）・・・中学校生活の紹介や励ましの言葉を贈る。 職員 【授業参観】・・・授業参観などに小学校職員が1年生の授業を見学する。（1学期） 授業参観などに中学校職員が小学校6年生の授業を見学する。（2学期） 【道徳の時間のゲストティーチャー】・・・小学校職員が中学校の道徳の時間の説話を行う。（2学期） 中学校職員が小学校の道徳の時間の説話を行う。（3学期） 【出前授業】（3学期）・・・中学校職員が小学校で道徳などの授業を行う。 【小中校長交換講話】（各学期）・・・全校朝会などでそれぞれの校長が交換して講話をする。 【合同研修会】（夏季休業）・・・児童生徒の情報交換をするとともに、道徳授業研修会を行う。 【合同授業研究会】（2学期）・・・中学校で研究授業を行い、生徒の様子を含めた指導方法について研究協議を行う。 【小中連絡会】（3学期）・・・中学校に入学する児童の様子について共通理解を図る。		学級活動「中学生になって」 ・個々に目標を持たせ、自己を向上させようとする態度を育てる。 道徳の時間 強い意志 1ー（2）「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。 学級活動「学級の人間関係づくり」 ・生活の基盤となるコミュニケーション能力を養う。 道徳の時間 個性の伸長 1ー（5）「きらめけぼくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。 総合的な学習の時間「職場体験学習に向けて」 ・挨拶、礼儀、マナー、言葉遣いなど人と接する力を養う 道徳の時間 場をわきまえた言動 2ー（1） 「マナーは考えなくていいのか」 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。 総合的な学習の時間「職場体験学習・発表会」 ・学ぶことや働くことの意義を理解し生きることの尊さを実感させ、生涯にわたって学び続ける態度を育てる 学級活動「自分について知る」 ・自分の長所短所に気づき、自分の能力を伸ばそうとする態度を育てる。 道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1ー（2）「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。 道徳の時間 自主・自律 1ー（3） 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。 学級活動「体育祭、合唱祭に向けて」 ・個性を生かした役割分担をもとに、積極的に活動しようとする態度を育てる。 高い志を持ち、夢に向かって 本気で取り組む生徒	
		3 学 期	社会「わたしたちのくらしと日本」 ・国民としての義務や権利などに基づき政治が行われていることを知り、これから自分たちが社会の中心として活躍していくことを考えられるようにする。 道徳の時間 希望・努力 1ー（2）「道ひとすじに 荻野吟子」 ・目標に向けて、希望と勇気をもち、くじけずに努力しようとする意欲を育てる。 体育「なわとび」「持久走」「バレーボール」 ・お互いのよさを認め合い、目標に向けた努力の過程と成果について考えられるようにする。 総合的な学習の時間「自分探しの旅」 ・将来の展望と働くことの意義について自分とのかかわりで考えることができるようにする。 学級活動「もうすぐ中学生」 ・卒業を喜ぶとともに中学校へ向けて希望や目標をもった生活ができるようにする。 夢や目標に向かって努力し続ける強い意志をもった児童		中学生→小学校 【清掃作業】（1年生・1学期）・・・小学生と合同で小学校周辺および地域の公園やゴミ収集所等の清掃活動を行う 【資源回収】（全校生徒・各学期）・・・小学生と合同で母校の資源回収に参加する。 【読み聞かせ】（図書委員会・2学期） ○読書推進活動・・・2、3年生が小学校6年生に、1年生が小学校5年生に朝読書で読み聞かせを行う。 【挨拶運動】（生徒会本部役員・2学期） ○小学校にて挨拶運動・・・小学校の児童会役員とともに小学校の正門、児童玄関にて挨拶運動を行う。 【陸上指導】（陸上部・2学期） ○運動会の参加・・・クラス対抗リレー等に参加する。 ○陸上大会に向けた指導・・・陸上部員と体育教師が技能指導を行う。 【合唱披露】（3年生・2学期）・・・小学校の朝会で代表クラスが合唱を披露する。 【作品の交流】（全校生徒・各学期）・・・書写や美術の作品を小学校に掲示する。 【補習講師】（2・3年生希望者・夏季休業）・・・夏休みに小学校6年生を対象に補習を行う。 【6年生を送る会参加】（生徒会本部役員・3学期）・・・中学校生活の紹介や励ましの言葉を贈る。 職員 【授業参観】・・・授業参観などに小学校職員が1年生の授業を見学する。（1学期） 授業参観などに中学校職員が小学校6年生の授業を見学する。（2学期） 【道徳の時間のゲストティーチャー】・・・小学校職員が中学校の道徳の時間の説話を行う。（2学期） 中学校職員が小学校の道徳の時間の説話を行う。（3学期） 【出前授業】（3学期）・・・中学校職員が小学校で道徳などの授業を行う。 【小中校長交換講話】（各学期）・・・全校朝会などでそれぞれの校長が交換して講話をする。 【合同研修会】（夏季休業）・・・児童生徒の情報交換をするとともに、道徳授業研修会を行う。 【合同授業研究会】（2学期）・・・中学校で研究授業を行い、生徒の様子を含めた指導方法について研究協議を行う。 【小中連絡会】（3学期）・・・中学校に入学する児童の様子について共通理解を図る。		学級活動「自分について知る」 ・自分の長所短所に気づき、自分の能力を伸ばそうとする態度を育てる。 道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1ー（2）「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。 道徳の時間 自主・自律 1ー（3） 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。 学級活動「体育祭、合唱祭に向けて」 ・個性を生かした役割分担をもとに、積極的に活動しようとする態度を育てる。 高い志を持ち、夢に向かって 本気で取り組む生徒

-道徳資料 1-

小学校 6 年生		関連する交流行事、職員連携等		中学校 1 年生	
時期	道徳の時間と他の教育活動			道徳の時間と他の教育活動	
1 学 期	学級活動「最高学年なんだ」「〇〇小学校をよりよい学校に」 ・最高学年としての自覚とより高い目標に向かって自ら進んで努力し明るく生活できるようにする。		小中共通の取り組み ・埼玉県教育に関する 3 つの達成目標の規律ある態度の徹底 ・小学校中学校共通の学習規律、生活の約束の確認	道徳の時間 『望ましい生活習慣』 1－（１）「父の一言」 ・望ましい生活規律を身に付けることが、人としての成長にも深く関わっていることに気づき、自ら進んで規律ある生活を身に付けていこうとする態度を育てる。	
	道徳の時間 希望・努力 1－（２）「父の思いを受け継いで」 ・より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力していこうとする態度を育てる。			学級活動「中学生になって」 ・個々に目標を持たせ、自己を向上させようとする態度を育てる。	
	家庭科「生活を見直そう」 ・自らの生活を振り返り生活時間を工夫し、自己実現のためによりよい生活習慣を身につけるようにする。			道徳の時間 強い意志 1－（２）「実践目標は小さきみに」 ・達成しやすい目標を達成するための努力を積み重ねながら、高い目標に向けてねばり強くやり抜く態度を育てる。	
2 学 期	道徳の時間 規律ある態度 1－（１）「心のブレーキ くっそろえ」 ・自分の生活を振り返り、落ち着いてよく考えながら行動しようとする態度を育てる。		6 年生→中学校	学級活動「学級の人間関係づくり」 ・生活の基盤となるコミュニケーション能力を養う。	
	児童会活動			道徳の時間 個性の伸長 1－（５）「きらめけぼくだけの音色」 ・社会の中に生きる一人として自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。	
	総合的な学習の時間「チャレンジボランティア」 ・人の存在の大切さに気がつき温かい気持ちで接することができる。			総合的な学習の時間「職場体験学習に向けて」 ・挨拶、礼儀、マナー、言葉遣いなど人と接する力を養う	
	道徳の時間 礼儀 2－（１）「ちょっとひどくない？」 ・自分の言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えて、言葉を正しく使おうとする態度を育てる。			道徳の時間 場をわきまえた言動 2－（１） 「マナーは考えなくていいのか」 ・礼儀は相手を人間として尊重する行為であることを理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。	
	学校行事			総合的な学習の時間「職場体験学習・発表会」 ・学ぶことや働くことの意義を理解し生きることの尊さを実感させ、生涯にわたって学び続ける態度を育てる	
3 学 期	道徳の時間 友情・信頼 2－（３）「友達だから」 ・お互いに理解し、信頼し合い、向上していくことができる友情関係を築こうとする態度を育てる。		中学生→小学校	学級活動「自分について知る」 ・自分の長所短所に気づき、自分の能力を伸ばそうとする態度を育てる。	
	学級活動「ソーシャルスキル」「構成的グループエンカウンター」 ・表現し合い、認め合うことでコミュニケーション能力を育てる。			道徳の時間 着実にやり抜く強い意志 1－（２）「心の涼風」 ・より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う。	
	社会「わたしたちのくらしと日本」 ・国民としての義務や権利などに基づき政治が行われていることを知り、これから自分たちが社会の中心として活躍していくことを考えられるようにする。			道徳の時間 自主・自律 1－（３） 「私たちの初詣」 ・他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。	
	道徳の時間 希望・努力 1－（２）「道ひとすじに 荻野吟子」 ・目標に向けて、希望と勇気を持ち、くじけずに努力しようとする意欲を育てる。			学級活動「体育祭、合唱祭に向けて」 ・個性を生かした役割分担をもとに、積極的に活動しようとする態度を育てる。	
	体育「なわとび」「持久走」「バレーボール」 ・お互いのよさを認め合い、目標に向けた努力の過程と成果について考えられるようにする。			目指す生徒像	
総合的な学習の時間「自分探しの旅」 ・将来の展望と働くことの意義について自分とのかかわりで考えることができるようにする。					
学級活動「もうすぐ中学生」 ・卒業を喜ぶとともに中学校へ向けて希望や目標をもった生活ができるようにする。		職員	目指す児童像「 」		

目指す児童像「
」

目指す生徒像

－道徳資料 2－

【中学校第 1 学年道徳 内容項目 1－(2)「希望・勇気・強い意志」授業例】

小・中学校間のなめらかな連携に係る授業例作成の意図

- この資料は、生徒にとって同質性の高い資料であり、各自の体験やこれから予想される生活を重ね合わせて考えさせることにより、よりよい自分の生き方を求めて、どのように判断したり、どんな心構えをもつことがよいかを自分自身の切実な問題として自覚を深めさせることができると考えるため。
- 中学生になると自分の思い通りにならないことがあるとわかってくる。安易な方向へ流されていくのではなく、今までの努力やこれからの人生を考えると、思い通りにならなくても一歩一歩努力して前進していくことが大切だと考えさせたいため。
- 小学校から中学校と環境が変わり、誰もが抱える不安な気持ちが資料と重なる。しかし、現在の努力は決して無駄ではない。失敗は成長への過程。過程が大切と考えさせたいため。

第 1 学年 3 組 道徳学習指導案

- 1 主題名 着実にやり抜く強い意志 内容項目 1－(2)
資料名 「心の涼風」 出典 彩の国の道徳 中学校「自分を見つめて」埼玉県教育委員会

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目 1－(2)は「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」をねらいとしている。人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。「目標」とは大きなものだけではなく、日常生活の小さな目標であっても、それが達成された時には満足感を覚え、自信や勇気が起こるものである。その達成感は、次の目標に向かうための意欲を引き起こし、人生を切り開いていく原動力となる。どんなに小さな目標でも、繰り返し達成感を味わい積み重ねていくことで、生涯をかけるような理想や目標を持つことにつながり、そのことが日々の生活を充実させることへとつながっていく。そのためには、広い視野で、物事を正しく判断し、目標を実現するための諸条件を検討しながら、困難に屈せず粘り強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度が必要である。

(2) 生徒の実態

本学級は、ここ一番という時に底力を発揮するクラスである。行事では練習の成果を十二分に発揮し、よい結果を残してきた。しかし、その過程を見ると、自分たちが決めた目標に対して、練習においても手を抜かず着実にやり抜こうとする態度が不十分である。また、学習では、定期テストも回を重ねるごとに、目標をもって頑張る者もいれば、勉強に対する意欲が見られない者もでてきている。いわゆる中 1 ギャップに直面し、こんなはずではないと考えたり、思うように学習などで結果が出せずプレッシャーを感じたり自信がなくなったりして、それを乗り越えられずにいる者も何人かいる。中学生のこの時期は、例えば部活動など、自分の好むことや価値を認めたことに対して、意欲的に取り組もうとする。しかし、障害や困難に直面すると簡単にあきらめてしまったり、理想通りにいかない現実には悩むことも多い。今後の中学校生活を有意義に過ごすためには目標を持ち、それに向かって粘り強く最後まであきらめずにやり抜こうとする姿勢は大切である。一つ一つの積み重ねが希望につながり、豊かな生き方につながっていく。

クラスのアンケート結果によると、「3年間の部活動であなたが最終的に目指していることは何ですか。」という質問に対して運動部のほとんどが、県大会出場、学総優勝、ベスト 4 など大きな目標をもっていった。また、「今までの部活動で前向きになれなくなったことはありますか。」という質問には、65%が「ある」と答えている。入学から 6 か月の間に 65%が壁にぶつか

ったことになるが、その全員が、「今は何もない。」「今は頑張っている。」「全くなくなり、楽しくなった。」「いつも限界まで練習している。」「たまにはあるけど、頑張っている。」と答えている。それぞれが中学校に入学してから半年の間に、3年先の目標をもち、壁にぶち当たり、それを乗り越え、前に進んでいるようである。

これらのことから、小学校から中学校への接続期を迎える児童生徒には、勉強や、部活動、夢や希望に対して、目標を持って一步一步努力していくということが大切であると考え。目の前の小さな目標であっても、それを達成した時は誰もが嬉しい気持ちになり、次の目標設定の力となる。時には自分が立てた目標すら忘れてしまうこともあったり、うまくいかないと実感し挫折してしまうときも多々あるが、困難に屈しないで、ねばり強く最後まで着実にやり抜く強い意志と態度を育てるように指導したい。

(3) 資料について

主人公の康雄とその親友の誠は中学3年生、陸上部に所属しており、100mと110mハードルを専門としていた。最後の大会では自己最高記録を出すことを目標に部活動に励んできた。しかし、その大会前に左腿にけがをしてしまい、練習ができなくなってしまう。やっと練習に参加できるようになったのが大会の3日前であった。

親友でもありライバルでもある誠は、康雄の足を心配するが、一度も誠に勝ったことがない康雄は、迫っている大会を前に焦り、練習してもうまくいかなかった。そのため、ハードルは辞退して100mに専念しようとするが、その時の康雄の焦る気持ちや、自己最低記録が出るかもしれないという不安な気持ちを押さえさせたい。誠からは「うまくいかないから逃げただけだ。もう一度考え直した方がいい。」と言われるが、焦りや不安、劣等感などからグラウンドを去ってしまう。次の日も練習には行けなかったが、心の中で「ちくしょう、大会前なのに何やってんだ、俺は。でもなあ・・・。」とつぶやく。誠に言われ、本当のことだとわかってはいるけれど、くやしい気持ちや、練習に出た方がいい、ハードルのことも気になるという複雑な気持ちを捉えさせたい。

次に、練習をさぼった日、靴の中に紙切れに書いた誠からの手紙が入っていた。その手紙を読んだ時の康雄を襲った、友達への気持ちやハードルへの未練、そして消えない不安や焦りを捉えさせたい。その後、部屋で何気なく今まで2年半もの間書いてきた、陸上ノートを見た。入部からの記録や反省が何ページにもわたって記されていた。その時、今度の大会は入部から長い日々の積み重ねの最後の目標である大会であること、今までそれに向かっていくつもの大会があり練習があり、そのたびに反省をし、前に進んできたことを思いだし、今自分は不安や焦り、出ない言い訳を探す自分自身に負けていたこと気付く。その時の康雄の気持ちを押さえたい。

最後に、結局はハードルにも出場し練習不足などから記録は出なかったが、ハードルに足をぶつけ転倒しても起き上がりやっとの思いでフィニッシュする。不安や焦りがあったにもかかわらず、康雄にやはりハードルに出ようと決意させたものは何であったかを考えさせたい。

3 研究との関わりについて

小中連携に関するアンケートによると、「自分なりの目標は持ちたいと思う」の問いに対して小学校6年生では89%、中学校1年生では81%、「自分のこれからの将来は明るいと思う」の問いには小学校6年生では76%、中学校1年生では67%が、「とてもそう思う」、「わりとそう思う」と答えている。自分のこれからの将来に関しては、明るく楽しみであり目標を持って生活したいと思っているようである。しかし、2項目は、共にポイントは下降している。その理由としては、中学1年生になると、自分というものがわかってきて、思うようにならないことがわかってくるために、あきらめてしまったり、安易な方向に流されているからではないかと思われる。計画を実行する態度についても、小学校では69%に対し、中学校では50%

大幅にダウンしている。自分の将来に希望を持っているが、それを実現していくために、計画を立て、それを実行していこうとする力は不足していると思われる。その点を考えると、目の前の現実に対して乗り越えていこうとしたり、あきらめずに実行していこうとする力は、小学生よりも中学生の方が低下しており、小学校で抱いた夢や希望や目標に対して挫折を感じてしまう割合が高いのではないだろうか。

思い通りにならなくても、一步一步努力して前進していくことが大切であること。失敗にも価値があり、その過程が大切であること。これらの重要性からみて、1－(2)の視点で授業をすることが必要であると考えた。

4 ねらい

より高い目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲を養う

事前に夢や希望、将来のことについてのアンケート実施、道徳性に関する実態把握へ。

5 他の教育活動等との関連

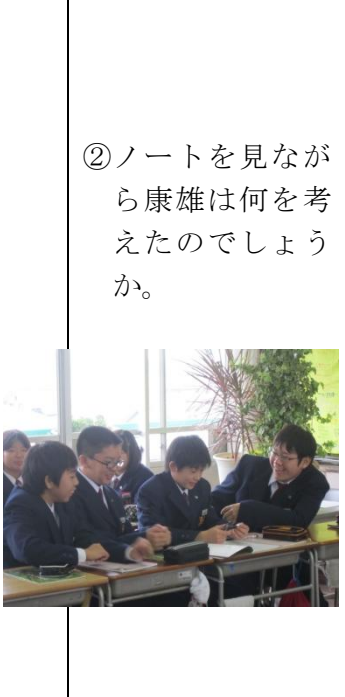
事前指導	・学級活動 目標の立て方を知り、実際に目標を立ててみる。(ライフスキル教育) ・総合的な学習の時間 職場体験学習・発表会
事後指導	・教室の道徳コーナーに意見や考えを提示し、相乗的な意識を高める。 ・授業の様子、授業後の生徒の反応等を学級通信等で発信、家庭とも連携を図る。

事後指導として進路講演会実施等、行事との関連も考えられる。

6 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価
導入	1 アンケートの結果を聞く。		・アンケートの結果を聞いて、ねらいとする価値にかかわる、今の自分の気持ちをとらえさせる。 ☆自分の気持ちを確認できたか。
展	2 「心の涼風」を読み、話し合う。		・資料が把握しやすいように、短冊等を用い、主人公の確認と条件・状況をおさえ、資料を捉えやすくする。
	① 誠に「うまくいかない自分から逃げたいだけだろ」と言われた時、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。	主人公・・康雄 } 誠に勝てない 100m 110mハードル 誠 } 中3 陸上部 親友 ライバル ・3年生最後の大会 目標は自己最高記録 ・練習中ハードルに足をかけ転倒 左腿に激痛 ・ドクターストップ 大会の3日前に復帰 ・お前に言われたくない。 ・誠と一緒に走りたくない。 ・人の気持ちも知らないで何を言ってるんだ。 ・けがで練習ができなかったのだからしょうがないだろう。 ・俺の気持ちがわからないんだな ・けがをしてうまくいかない気持ち ・言われて悔しい。 ・自分だってできれば出たい。	・生徒の反応を確かめながら臨場感のある範読となるようにする。 ・自己ベストを目標に頑張ってきた康雄の気持ちを押さえ、最後の大会で自己最低記録が出てしまうかもしれないという不安や、練習でもうまくいかないことからくるあせりにより、ハードルを辞退したいと思う気持ちに共感させる。

失敗に対するおそれ、焦り等、接続期に誰でも感じる不安に共感させる

開	②誠からの手紙を読んだ時、康雄はどんな気持ちだったでしょうか。	・最後の大会で、一番悔しいのは自分なのに・・・。 ・言われていることは間違っていない。 ・その通りだけれど言われるといやだ。 ・練習がうまくいかに不安だ。 ・記録も伸びずこのままでは不安だ。 ・実力が出せない。 ・今までやってきたのに残念だ。 ・出たい気持ちは、もちろんある。 ・心配してくれる気持ちはありがたい。	・練習を休みながらも、「ちくしょう、大会前なのに、何やってるんだ」と、心の中で康雄の揺れる気持ちを押さえる。 ・役割演技を通して、今まで、最後の大会を目標に頑張ってきただけに、思うようにいかない悔しさや、くじけそうになる気持ち、その反面このままで本当にいいのかと揺れ動く康雄の気持ちを捉える。
		・今までがんばって来たのが無駄になるのは・・・。 ・このまま出ないと後で後悔するのかも。	※役割演技を通して自分の問題として考えさせ、自分の道徳的価値観を明確にする。 ☆主人公の気持ちを深く考え、表現できたか。
	②ノートを見ながら康雄は何を考えたのでしょうか。	・このままでは誠に悪いな。 ・誠が思ってくれたから頑張ってみようかな。 ・実力が出し切れないまま、最後まで誠に負けて終わりたくない。 ・復帰したばかりで無理することもない。 ・調整が間に合わない。 ・100mにかけてみる。 ・無理をしてまたけがをしたくない。 ・やれるだけやってみようかな。 ・今までの努力が無駄になってもいいのか。	※役割演技を通して自分の問題として考えさせ、自分の道徳的価値観を明確にする。 ☆主人公の気持ちを深く考え、表現できたか。 ・今まで支え合ってきた親友の誠に対する感謝や、申し訳なかったという思いがあることを捉える。 小集団での話し合いを通して、ノートを見ながら、陸上部に入部してからずっと3年最後のこの大会を目標に頑張ってきたことを思い出し、どうしようかと悩む康雄の心の内を考える。
		・けがを理由に負けたくないから逃げていたのかな。 ・今までこの大会を目標に何年も頑張ってきたの	※小集団で自分の中の主人公は「ハードルは辞退するか」「大会に出るのか」で意見を聞き合わせる。 ※小集団での話し合いを全体の前で再現する。→他者理解・人間理解へ ※全体で更に話し合わせる。 ☆お互いに表現し合うことで他者を理解し、自己理解を深めながら道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容) ☆自己の道徳的価値が明確になったか。(発言内容) ☆他者の意見を聞き、道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容)

だからやってみよう。

- ・出なかったら後悔するな。
- ・自分は陸上が好きだ。結果ではない。
- ・結果ばかりにとらわれて、走ることが好きで頑張った自分はどしたんだ。
- ・自分と誠はライバルだけれども今まで支え合ってきた。

- ・一人ずつ考えを述べ、質問したりしながら、同じところ、違うところを明確にさせる。
- ・小集団での話し合いを全体の前で発表させる。
- ・自分の価値観を明確にさせてから、学級全体で更に話し合う。

思い通りにならなくても、1歩ずつ努力することの大切さについて、お互いの価値観を共有し合うための話し合い。



④康雄に大会に出ようと思わせさせたものは何でしょうか。

- ・あきらめてはだめだ。
- ・記録だけが問題ではない。



※小集団で話し合い、画用紙に自由に書き込む。

※各小集団での話し合いをまとめて発表する。

☆お互いの意見を聞くことで、他者を理解し、自己理解を深めながら道徳的価値の自覚が深まったか。

(発言内容)

☆自己の道徳的価値が明確になったか。(発言内容)

☆他者の意見を聞き道徳的価値の自覚が深まったか。(発言内容)

康雄が大会に出ようと思わせた物。

理由。1つめは手紙です。手紙に誠からのハジマの言葉が書いてあったから。勇気が出て、大会に出ようと思えた。

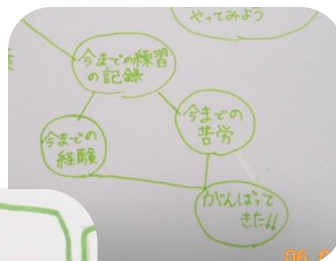
2つめは陸上ノートです。陸上ノートにさまざまな記録や経験が記されていて、すべてが思い出。来たらこんな所で立ち止まらなければならない!!! と思った。

多様な方法による価値観を共有により、1—(2)についての考えを深める。

「失敗は成長の過程」

・主人公の話を通して気づいたことや、今までの自分の在り方で気付いたこと等を机間指導しながら把握する。

3 今日の学習を振り返り、自己の在り方を見つめる。



自分が3年までがんばってきたから...途中であきらめたけど、ダメだと思った。(1)

※書く活動を通し、自己の生き方を見つめさせ、道徳的実践意欲を高めさせる。

☆できていない自分の姿に気づけたか。(記述内容)

☆自分の生き方として捉えられたか。(記述内容)

終末	4 <u>教師の説話を</u> 聞く。	生徒指導関係で、地域の小学校に指導に出向いている教員の説話	ねらいとする道徳的価値を心の中で深められるように余韻を残して終わるようにする。
----	---------------------	-------------------------------	---

8 評価の観点

- ・話し合いが活発に行われ、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする中で、自分の考えを深めることができたか。(発言・観察)
- ・目標に向かって、一步一步前に進んでいこうとする意欲が高まったか。(発言・観察・ワークシート)
- ・授業の流れは、ねらいに迫る上で効果的であったか。(話し合い)

9 板書計画

心の涼風

より高い目標に向かって一歩一歩前進する

康雄

誠に勝てない 100m 110mハードル

中3 陸上部 親友でありライバル

・3年生最後の大会 目標は自己ベスト更新

・練習中ハードルに足をかけ転倒 左腿に激痛

・ドクターストップ 大会の3日前に復帰

○「うまくいかないから自分から逃げたいだけだろう」と言われた時

・お前に言われたくない

・人の気持ちなんかわからないくせに。

・言われて悔しい。

・言われたことは本当だ。

○誠からの手紙を読んだ時

・誠は分かってくれていたんだ。ありがたい。

・このままでは誠に悪い。

・今まで頑張ってきたことが無駄になってしまうのか。

・出たい気持ちはある。

○ノートを見ながら考えている時

・今からでは間に合わない。

・怪我が怖い。

・記録が出なければ意味がない

・やれるだけやってみようかな。

・怪我を理由に逃げていたのか

・誠とは支え合ってきた。

・今まで何度も乗り越えてきた。

・今回も乗り越えられるはず。

・結果ばかりにとらわれていた

・走ることが好きだ。

○康雄に大会に出ようと決心させたものは何か

3年生

2年生

1年生

(ノートの内容をわかりやすく提示)

生徒の振り返り

中学一年生 心の軌跡 11月 5日

(資料名) 心の涼風

今日の学習を通して、どんなことを感じ、学びましたか。
また、これからの生き方を考えてみたいでしょう。

この学習をして、部活でくいけそうに
なったりしたら、あきらめない、にげ
なり、がんばる、この三つを忘れな
いで、今後の自分へ生活を変えてゆきたいなと思
い、また、
それと、人生で何百回も落ち込んでしま
う事は、人間だから、あると思
い、けど、たまたまおつぱい振
つれば、結果がダメにな
り、次にいかにするかわから
ない、自分も、こうかいなく、何
度か立て直さなければなら
ないです。最後に、先生がセ
ンパイとして、名言を残し
てくれて、すごく、気に入
り、なので、今後、やせつ
そうになつたりしたら、その
言葉をもっと思い出して、
夢に近づけるように、日々、
努力してゆきたいです。



中学最後の大会 3年 大会 スラップ 2年 リーグ争い けが 新人戦 スラップ 1年 初めの夏 こゆい先輩 入部

事前にとったアンケートにあった言葉

授業のあった日の一言日記より

日記
今日は、石研究授業でした。今日の勉強は「バの涼風」というのもやりました。私は、今バレー部のいふいです。バ、くじけそうになった事は、まだ一度もありません。でも、これからくる練習や、「嫌だ」と思うこともあるかもしれませんが、がんばりたいと思います。私は、バレーボール部が好きなんでこれから頑張ります。

【小学校第 6 学年道徳 内容項目 1－(2)「希望・努力」授業例】

小・中学校間のなめらかな連携に係る授業例作成の意図

- 思い通りにいかないことがあるという人生の厳しさに気づき、それでも乗り越えていく主人公の強さにふれることで、中学校生活の環境の変化を自らの意思で切り開いていこうとする意欲を育てることが必要と考えたため。
- 小学校を卒業し、中学校へ入学する節目の時期を迎え、将来への希望をもつと同時に新たな環境を前にして不安を抱える児童が多くいるため。

第 6 学年〇組 道徳学習指導案

- 1 主題名 自分目標に向かって [内容項目 1－(2)希望・努力]
- 2 資料名 「道ひとすじに ―日本最初の公認女性医師 荻野吟子―」
出典：彩の国の道徳 高学年 『夢にむかって』埼玉県教育委員会

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目 1-(2)は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」をねらいとしている。小中学校接続期には、大きな環境の変化や思うようにいかない現実にあふれることがある。しかし、勇気と希望をもつことができれば、それらの壁を快活に乗り越えることができ、自身の成長の糧になるのである。そのためには、計画的に努力目標を立てたり、くじけずに希望と勇気をもって理想に向かって着実に前進していったりする強い意志と実行力を育てることが求められる。将来にわたって繰り返される、大きな生活環境の変化や思い通りにならない局面を乗り越えるためのしなやかな心を養いたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学級や学年といった集団に共通する課題に対しては、前向きに努力しながら乗り越えることができている。運動会の集団演技や音楽祭では、共有する大きな目標を達成するために個人の目標を立て、自主的に努力を重ねて達成してきた。ほとんどの児童が一つの目標に向かって努力できたのは、人間関係が良好であり、励まし合いながら協力的に努力を重ねることができたことが一因と考える。しかし、周囲からの干渉を受けにくい個人の課題に対しては、目を背けている児童もいる。また、困難にあふれることを避けるために、目標設定が予め低く設定されている児童や、目標達成に向けて努力している途上で投げ出してしまう児童もいる。中学校に進学すれば新たな集団を形成することになり、その中には十分に支え合える仲間がいるとは限らない。また、いつも支えられるだけではなく、時には大切な仲間を支えていかなければならないことを考えると、個人の課題にこそ果敢に挑戦し、乗り越えていく力を身に付ける必要がある。

「夢や目標についてのアンケート」の実施結果を見ると、88%の児童が夢や希望をもっており、77%の児童が現在夢中になって努力していることから、多くの児童が、将来に対して希望をもって努力することの意味や大切さを感じているものと考えられる。しかし、実際には、設定した目標に対して最後までやり遂げることができない児童は多数おり、課題を乗り越えた先にある充実感や達成感を感じた経験が乏しいことも考えられる。

そこで、日常的に経験しているであろう、苦しい時にこそもうひと踏ん張りして、困難を乗り越える力を身に付けさせたい。また、希望を絶やさずに毎日の小さな努力を積み重ねることによって得られた充実感に喜びを感じながら、前向きに生きていけるよう指導したい。

(3) 資料について

自己の生き方を模索し始めるこの段階の児童は、何事にもくじけないで生きていく姿に憧れを抱いたり、歴史上の先人や信頼できる大人の生き方の中にその姿を見つけたりして、大いに刺激を受ける時期である。本資料は、女性が医師になるという、当時まだ誰も成し得なかったことを不屈の精神で乗り越えて実現した、埼玉県の偉人、荻野吟子を資料としている。

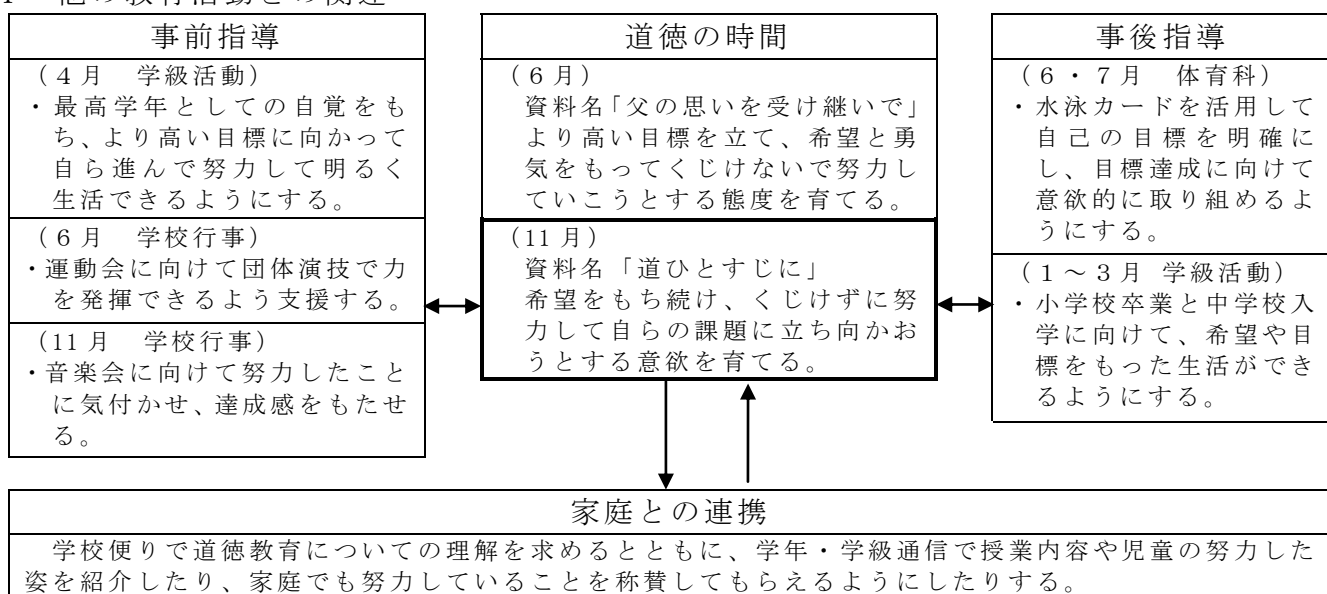
吟子は、現在の熊谷市に名主の五女として生まれた。若くして病気になり、4年間の入院生活を送った時の経験から、女性医師がいなくて嫌な思いをしている同じ境遇の女性達を救いたいという強い思いから、19歳の時に医師になることを決意する。始めに、当時は女性が医師になる前例が無く、周囲からは猛反対されながらも自らの信念を貫こうとする吟子の強い意志に共感させたい。

次に、女性であるために医学校への入学を断られてしまったり、開業試験を受けさせてもらえずに医師を目指す道が閉ざされたりする現実にあつたときの吟子の葛藤する気持ちについて話し合わせ、ねらいとする価値に迫りたい。国の制度という大きな壁にはばまれ、女性が医師を目指す道が閉ざされている現実にあつたときの吟子の葛藤する気持ちについて話し合わせたい。

そして、ひたむきな努力により試験に合格し、公認医師となった吟子の半生を振り返りながら、困難を乗り越えた時の達成感を共感的にとらえさせたい。また、女性を救うという本来の目的に向けて、より高い目標を掲げて引き続き努力していかうと情熱を燃やしている気持ちについても気付かせたい。

最後に、62歳で亡くなるまでの吟子の生き方について考えをふくらませ、児童一人一人の心に、一つのことに向かって夢や希望をもつことや努力し続けることの大切さを感じさせたい。

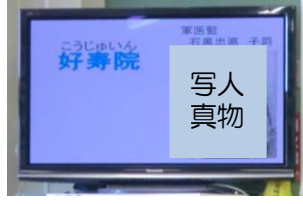
4 他の教育活動との関連



5 本時のねらい

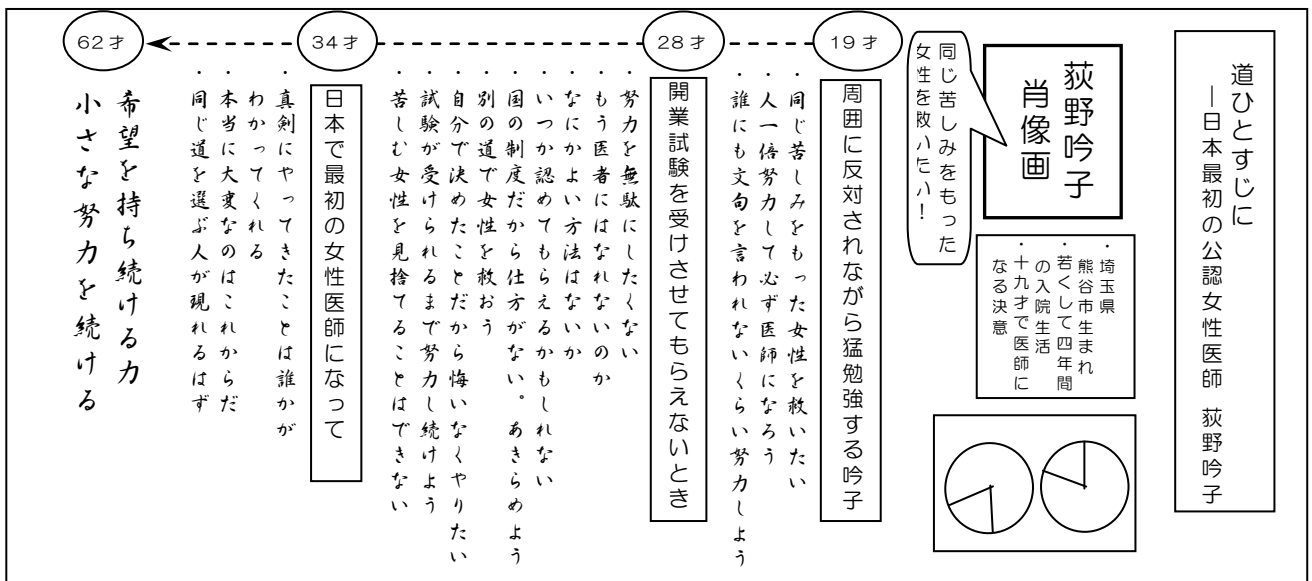
希望をもち続け、くじけずに努力して自らの課題に立ち向かおうとする意欲を育てる。

6 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の観点
導入 (5分)	1 アンケートの結果から、夢や希望について考える。 ・夢や目標があるクラスメイトの割合は。(ある・なんとなくある 88%) ・夢中になって努力しているクラスメイトの割合は。(ある・なんとなくある 77%) 	1-(2)に関する学級の実態を把握するためのアンケート ・だれにでも目標くらいあるのではないかな。 ・将来のことはわからないから、あまり考えていないのではないかな。 ・職業以外にも「夢」はあるのではないかな。 職業としての夢や長期的な目標だけでなく、目の前の課題を乗り越えるための短期的な目標があることに気づかせる。 また、小さな努力を重ねて課題を克服する力が、中1ギャップの軽減につながることを意識する。	・「夢や目標についてのアンケート」結果をグラフで示し、ねらいとする価値への方向付けを行う。 ・少数意見である「夢や目標がない」と回答した児童の意見を聞き、将来に悩む気持ちに共感させる。 ・目標が必ずしも職業に結びつかないことに気付かせる。 ・夢や目標をもっていることと努力することが結びついていないことに気付かせる。 ☆本時の内容と自己との関わりに気付いている。
展開	2 荻野吟子の人物像や条件・状況を知り、「道ひとすじに」を聞く。  3 日本初の公認女性医師荻野吟子の生き方について話し合う。 (1) 周囲に反対されながらも、吟子はどのような思いで医師になるための勉強に励んだのか。	登場人物（主人公）：荻野吟子（肖像画を掲示） 条件・状況 江戸時代末期（嘉永4）に、現在の埼玉県熊谷市に生まれた。若くして病に苦しみ4年間の入院生活を送ったが、その時代に女性医師はおらず、嫌な思いをした。19才の吟子は、同じような経験をしている女性を救いたいと医師になる決意をする。 ・同じ苦しみをもった女性を救いたい。 ・人一倍の努力をして必ず医者になろう。 ・夢を必ず実現させよう。 ・誰にも文句を言われなくらいの成績を収めよう。	・周囲に反対されながらも信念を貫く吟子の強い意志を感じ取らせる。 強い信念と希望をもち、目標に向けて努力する生き方にふれる。

展 開 (37分)	(2) 医学校を卒業してからも、女性であることを理由に開業試験を受けさせてもらえなかった吟子は、どのような気持ちであったか。 困難に直面して葛藤する主人公の生き方にふれながら、課題を乗り越えようとする意欲をもたせる。 本来の目的を見失わずに、目標をステップアップさせていく生き方のよさに気付く。 (3) 開業試験に合格し、日本初の公認女性医師になった吟子はどのような思いであったか。  4 本時の学習から自己の生き方を見つめる。 (ワークシートに、本資料と自己との関わりを書かせる)	・ここまでやってきたのに悔しい。 ・今までの努力を無駄にしたくない。 ・なぜ女性というだけで受けられないのだ。 ・もう医師にはなれないのか。 ・なにか別の方法はないか。 ・別の道で女性を救おう。 ・試験を受けさせてもらえるまで勉強を続けよう。 ・いつか認めてもらえるかもしれない。 ・国の制度だから仕方がない、あきらめよう。 ・苦しむ女性を見捨てることはできない。 ・自分で決めたことだから、悔いなくやり抜きたい。 ・本当に大変なのはこれから。 ・これから一人でも多くの女性を救いたい。 ・真剣にやってきたことは誰かが分かってくれる。 ・同じ道を選ぶ人がいつか現れるはず。 ・多くの女性を救うために、これまで以上に努力した。 ・医師になってからも偏見はあったが、希望を持ち続けて努力した。 ・できないことを人のせいにはしないでやり抜くこと。 ・大きな壁にぶつかっても努力をやめない粘り強さ。 ・前例がなくても切り開くことができる信じ続ける心の強さ。	・努力してもかなわない現状に苦悩している吟子の心の葛藤について深く考えさせる。 ・多様な考え（立場・価値観）があってよいことを確認する。 ☆自分の考えを他者に伝えながら、他者の考えを受け止めようとしている。 主人公の葛藤についての話し合いを通して互いの価値観を受容させ、信頼し合える人間関係を形成する。  ・希望を絶やさず努力してきたことで報われた時の達成感を、共感的にとらえさせる。 ・真の目的に向けてさらなる希望を抱いている吟子の生き方に気付かせる。 ・これまでの吟子の生き方を振り返りながら、その後の吟子の生き方を考えさせる。 自己の生き方と結びつけて振り返らせることで、道徳的实践意欲を高める。 ・アンケート項目を振り返らせることで、実際の自分の生き方とも結び付けられるようにする。 ☆荻野吟子の生き方をこれからの自分の生き方と結び付けて考えている。
終 末 (3分)	5 教師の説話を聞く。 ・中学生の時、成績が落ちて苦勞し、たくさん努力した経験	その他の終末の例として、中学生からのビデオメッセージ、中学校校長による説話、インタビューによる説話の紹介等が考えられる。	・偉業を成し遂げた人物も自分達も、努力している段階では同じ可能性をもった一人の人間であることを知らせる。

7 板書計画



児童の振り返り

◎自分とむすびつけて考えたこと
僕はJAXAへ行くと
いう夢があります。今の
は、もちろん難しいと思
うけど、あきらめずに何回
も挑戦して努力をしてい
れば必ず報われると思
いました。まずは、目の前
の二つ二つに集中してい
います。

◎自分とむすびつけて考えたこと
ぼくは、めんどくさくて、やる
べきことをやらない時があり
ます。でも、吟子さんは、あきら
めず、努力をしていたので、す
ごいよと思えました。どんなこと
でも、あきらめずに努力を
続けられ、必ず結果はついて
くるので、あきらめず、努力
していききたいと思えました。

◎自分とむすびつけて考えたこと
私は、あきらめず、努力し
たところを見習いたいと思
いました。
反対されながらも、努力し
ていくような強いところは
参こうにしたいです。

◎自分とむすびつけて考えたこと
あきらめずに努力する
というのは、どれにもあては
まることだから、夢を叶
えたいなら努力すること
が大切なんだと改めて思
いました。だから夢をあき
らめずに努力したいと思
いました。

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会教師用アンケート

校種（ 小・中 ） 担当学年等（ 年・担任外 ）

【道徳の時間に関する意識】

1. 道徳の時間の指導についてどのような印象をもたれているか、次のア～ケのそれぞれについて、お答えください。

- | | | | | |
|---|-------------------|---------|-----------|--------|
| ア | 子どもの人間形成に役立っている。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| イ | 魅力ある教材や資料が様々にある。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| ウ | 指導の工夫が多様に考えられる。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| エ | 教科の授業とは違うよさがある。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| オ | 教師のやりがいのある授業である。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| カ | 子どもの変わる様子が感じられる。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| キ | いじめや非行の防止に役立っている。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| ク | 学力の向上に効果がある。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| ケ | 人間関係づくりに役立っている。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

2. 道徳の時間を充実させるための方策としてあげられた、次のア～コのそれぞれについて、お答えください。

- | | | | | |
|---|--------------------------|---------|-----------|--------|
| ア | ビデオなどの映像資料を大いに使うべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| イ | 新聞記事やニュースなどの報道をもっと使うべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| ウ | パソコンやインターネットをもっと使うべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| エ | 子どもが討論する学習をもっと充実すべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| オ | 調べ学習などをもっと取り入れるべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |
| カ | 担任以外の人をもっと授業に参加（参画）すべきだ。 | | | |
| | そう思う | わりとそう思う | あまりそう思わない | そう思わない |

キ 1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をもっとするべきだ。

- そう思う わりとそう思う あまりそう思わない そう思わない
- ク 各教科や総合的な学習の時間、特別活動との関連を図るべきだ。
- そう思う わりとそう思う あまりそう思わない そう思わない
- ケ 学期別月ごとにテーマを決めて重点的な学習をするべきだ。
- そう思う わりとそう思う あまりそう思わない そう思わない
- コ 学級の人間関係の問題をもっと取り上げるべきだ。
- そう思う わりとそう思う あまりそう思わない そう思わない

【中1ギャップに関する意識】

3. 「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はあると感じますか。

あると感じる まあまあ感じる あまり感じない 感じない

4. 「中1ギャップ」の原因は、どのようなことだとお考えですか。

--

5. 「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。
- ア 「中1ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。
- イ 「中1ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである。

【小中連携に関する意識】

6. 「中1ギャップ」の原因を踏まえ、小中の滑らかな接続のために、道徳教育でできることはどんなことだとお考えですか。

--

7. 各校における小中連携の充実度についてお答えください。

十分満足できる まあまあ満足できる あまり満足できない 満足できない

8. 小中連携を進める上で、課題となる（なっている）ものは何だとお考えですか。

9. 小中学校のなめらかな接続を目指すにあたり、重視したい道德の内容項目を下から5つまで選び、○印をつけてください。

〈小学校〉

- ア 思慮・反省，節度・節制
- イ 希望，勇気，不撓不屈
- ウ 自律，責任
- エ 誠実・明朗
- オ 創意・進取
- カ 向上心，個性伸張
- キ 礼儀
- ク 思いやり・親切
- ケ 友情・信頼，助け合い

- サ 寛容・謙虚
- シ 尊敬・感謝
- ス 生命尊重
- セ 自然愛，環境保全
- ソ 敬虔
- タ 公德心，規則の尊重，権利・義務

- チ 公正・公平，正義

- ツ 役割と責任の自覚

- テ 勤労，社会奉仕，公共心

- ナ 家族愛
- ニ 愛校心
- ヌ 郷土愛，愛国心
- ネ 国際理解・親善

〈中学校〉

- ア 望ましい生活習慣，健康，節度
- イ 希望，勇気，強い意志
- ウ 自主・自律，誠実，責任
- エ 真理愛，理想の実現
- オ 向上心，個性の伸張，充実した生活

- キ 礼儀
- ク 人間愛，思いやり
- ケ 信頼・友情
- コ 男女の敬愛
- サ 自他の尊重，謙虚，寛容の心
- シ 感謝
- ス 生命尊重
- セ 自然愛，畏敬の念
- ソ 人間の弱さの克服，人間の気高さ
- タ 法やきまりの遵守，権利と義務
社会の秩序と規律
- チ 公德心，社会連帯，よりよい社会の
実現
- ツ 正義，公正・公平，差別や偏見のな
い社会の実現
- テ 社会生活の向上，役割と責任
- ト 勤労の尊さ，奉仕，公共の福祉
- ナ 家族愛
- ニ 愛校心
- ヌ 郷土愛
- ネ 日本人としての自覚，文化の継承
- ノ 国際理解，人類愛

ご協力ありがとうございました。

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会 教師向けアンケート結果【資料 6】

【道徳の時間に関する意識】 1 道徳の時間の指導についてどのような印象をもたれているか、次のア～ケのそれぞれについて、お答えください。		総合			小学校			中学校		
		各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率
ア 子どもの人間形成に役立っている。	そう思う	39	77	50.6%	19	38	50.0%	20	39	51.3%
	わりとそう思う	38		49.4%	19		50.0%	19		48.7%
	あまりそう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
イ 魅力ある教材や資料が様々にある。	そう思う	18	77	23.4%	10	38	26.3%	8	39	20.5%
	わりとそう思う	47		61.0%	26		68.4%	21		53.8%
	あまりそう思わない	12		15.6%	2		5.3%	10		25.6%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
ウ 指導の工夫が多様に考えられる。	そう思う	32	77	41.6%	17	38	44.7%	15	39	38.5%
	わりとそう思う	37		48.1%	19		50.0%	18		46.2%
	あまりそう思わない	8		10.4%	2		5.3%	6		15.4%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
エ 教科の授業とは違うよさがある。	そう思う	51	77	66.2%	22	38	57.9%	29	39	74.4%
	わりとそう思う	25		32.5%	15		39.5%	10		25.6%
	あまりそう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
	そう思わない	1		1.3%	1		2.6%	0		0.0%
オ 教師のやりがいのある授業である。	そう思う	42	77	54.5%	19	38	50.0%	23	39	59.0%
	わりとそう思う	32		41.6%	19		50.0%	13		33.3%
	あまりそう思わない	3		3.9%	0		0.0%	3		7.7%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
カ 子どもの変わる様子が感じられる。	そう思う	8	76	10.5%	5	38	13.2%	3	38	7.9%
	わりとそう思う	53		69.7%	26		68.4%	27		71.1%
	あまりそう思わない	14		18.4%	7		18.4%	7		18.4%
	そう思わない	1		1.3%	0		0.0%	1		2.6%
キ いじめや非行の防止に役立っている。	そう思う	15	77	19.5%	8	38	21.1%	7	39	17.9%
	わりとそう思う	57		74.0%	29		76.3%	28		71.8%
	あまりそう思わない	4		5.2%	1		2.6%	3		7.7%
	そう思わない	1		1.3%	0		0.0%	1		2.6%
ク 学力の向上に効果がある。	そう思う	3	76	3.9%	2	37	5.4%	1	39	2.6%
	わりとそう思う	36		47.4%	23		62.2%	13		33.3%
	あまりそう思わない	35		46.1%	12		32.4%	23		59.0%
	そう思わない	2		2.6%	0		0.0%	2		5.1%
ケ 人間関係づくりに役立っている。	そう思う	30	77	39.0%	14	38	36.8%	16	39	41.0%
	わりとそう思う	43		55.8%	23		60.5%	20		51.3%
	あまりそう思わない	4		5.2%	1		2.6%	3		7.7%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%

2 道徳の時間を充実させるための方策としてあげられた、次のア～コのそれぞれについて、お答えください。		総合			小学校			中学校		
		各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率	各項目度数	調査人数	百分率
ア ビデオなどの映像資料を大いに使うべきだ。	そう思う	27	76	35.5%	11	38	28.9%	16	38	42.1%
	わりとそう思う	38		50.0%	21		55.3%	17		44.7%
	あまりそう思わない	11		14.5%	6		15.8%	5		13.2%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
イ 魅力ある教材や資料が様々にある。	そう思う	26	77	33.8%	13	38	34.2%	13	39	33.3%
	わりとそう思う	40		51.9%	19		50.0%	21		53.8%
	あまりそう思わない	11		14.3%	6		15.8%	5		12.8%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
ウ パソコンやインターネットをもっと使うべきだ。	そう思う	16	77	20.8%	8	38	21.1%	8	39	20.5%
	わりとそう思う	29		37.7%	16		42.1%	13		33.3%
	あまりそう思わない	32		41.6%	14		36.8%	18		46.2%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
エ 子どもが討論する学習をもっと充実すべきだ。	そう思う	31	77	40.3%	14	38	36.8%	17	39	43.6%
	わりとそう思う	36		46.8%	18		47.4%	18		46.2%
	あまりそう思わない	9		11.7%	6		15.8%	3		7.7%
	そう思わない	1		1.3%	0		0.0%	1		2.6%
オ 調べ学習などをもっと取り入れるべきだ。	そう思う	2	77	2.6%	1	38	2.6%	1	39	2.6%
	わりとそう思う	18		23.4%	9		23.7%	9		23.1%
	あまりそう思わない	51		66.2%	27		71.1%	24		61.5%
	そう思わない	6		7.8%	1		2.6%	5		12.8%
カ 担任以外の人ももっと授業に参加(参画)すべきだ。	そう思う	47	77	61.0%	24	38	63.2%	23	39	59.0%
	わりとそう思う	25		32.5%	13		34.2%	12		30.8%
	あまりそう思わない	5		6.5%	1		2.6%	4		10.3%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
キ 1時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をもっとするべきだ。	そう思う	12	76	15.8%	5	37	13.5%	7	39	17.9%
	わりとそう思う	22		28.9%	12		32.4%	10		25.6%
	あまりそう思わない	39		51.3%	19		51.4%	20		51.3%
	そう思わない	3		3.9%	1		2.7%	2		5.1%
ク 各教科や総合的な学習の時間、特別活動との関連を図るべきだ。	そう思う	42	76	55.3%	25	37	67.6%	17	39	43.6%
	わりとそう思う	32		42.1%	11		29.7%	21		53.8%
	あまりそう思わない	2		2.6%	1		2.7%	1		2.6%
	そう思わない	0		0.0%	0		0.0%	0		0.0%
ケ 学期別月ごとにテーマを決めて重点的な学習をするべきだ。	そう思う	15	76	19.7%	8	37	21.6%	7	39	17.9%
	わりとそう思う	41		53.9%	19		51.4%	22		56.4%
	あまりそう思わない	17		22.4%	9		24.3%	8		20.5%
	そう思わない	3		3.9%	1		2.7%	2		5.1%
コ 学級の人間関係の問題をもっと取り上げるべきだ。	そう思う	11	76	14.5%	7	37	18.9%	4	39	10.3%
	わりとそう思う	30		39.5%	15		40.5%	15		38.5%
	あまりそう思わない	31		40.8%	14		37.8%	17		43.6%
	そう思わない	4		5.3%	1		2.7%	3		7.7%

【中1ギャップに関する意識】										
3.「中1ギャップ」と言われますが、実際に児童生徒を見て、「中1ギャップ」はあると感じますか。	そう感じる	22	74	29.7%	10	35	28.6%	12	39	30.8%
	まあまあ感じる	39		52.7%	20		57.1%	19		48.7%
	あまり感じない	12		16.2%	5		14.3%	7		17.9%
	感じない	1		1.4%	0		0.0%	1		2.6%

5.「中1ギャップ」について、ご自身の意識と近い方を選び、○印をつけてください。										
ア 「中1ギャップ」に対して、できる限りなめらかな接続を目指すべきである。	39	73	53.4%	27	35	77.1%	12	38	31.6%	
イ 「中1ギャップ」は、あってしかるべきもので、乗り越えられる力を身に付けさせるべきである	34		46.6%	8		22.9%	26		68.4%	

【小中連携に関する意識】										
7. 各校における小中連携の充実度についてお答えください。	十分満足できる	1	77	1.3%	1	38	2.6%	0	39	0.0%
	まあまあ満足できる	33		42.9%	14		36.8%	19		48.7%
	あまり満足できない	40		51.9%	23		60.5%	17		43.6%
	満足できない	3		3.9%	0		0.0%	3		7.7%

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会
教師向けアンケート結果(小学校の部) その2

小中学校のなめらかな接続を目指すにあたり、重視したい道徳の内容項目を下から5つまで選び、○印をつけてください。				
〈小学校〉		選択数	百分率	順位
ア	思慮・反省, 節度・節制	10	27.8%	8
イ	希望, 勇気, 不撓不屈	8	22.2%	10
ウ	自律, 責任	22	61.1%	2
エ	誠実・明朗	5	13.9%	13
オ	創意・進取	1	2.8%	16
カ	向上心, 個性伸張	11	30.6%	7
キ	礼儀	10	27.8%	8
ク	思いやり・親切	13	36.1%	4
ケ	友情・信頼, 助け合い	28	77.8%	1
サ	寛容・謙虚	1	2.8%	16
シ	尊敬・感謝	4	11.1%	14
ス	生命尊重	12	33.3%	5
セ	自然愛, 環境保全	0	0.0%	21
ソ	敬虔	1	2.8%	16
タ	公德心, 規則の尊重, 権利・義務	15	41.7%	3
チ	公正・公平, 正義	8	22.2%	10
ツ	役割と責任の自覚	12	33.3%	5
テ	勤労, 社会奉仕, 公共心	6	16.7%	12
ナ	家族愛	1	2.8%	16
ニ	愛校心	1	2.8%	16
ヌ	郷土愛, 愛国心	3	8.3%	15
ネ	国際理解・親善	0	0.0%	21

「学校間の接続に関する調査研究」道徳部会
教師向けアンケート結果(中学校の部) その2

小中学校のなめらかな接続を目指すにあたり、重視したい道徳の内容項目を下から5つまで選び、○印をつけてください。			
	選択数	百分率	順位
ア 望ましい生活習慣, 健康, 節度	28	73.7%	1
イ 希望, 勇気, 強い意志	6	15.8%	14
ウ 自主・自律, 誠実, 責任	15	39.5%	4
エ 真理愛, 理想の実現	0	0.0%	22
オ 向上心, 個性の伸張, 充実した生活	10	26.3%	7
キ 礼儀	19	50.0%	2
ク 人間愛, 思いやり	17	44.7%	3
ケ 信頼・友情	7	18.4%	11
コ 男女の敬愛	1	2.6%	19
サ 自他の尊重, 謙虚, 寛容の心	8	21.1%	10
シ 感謝	9	23.7%	8
ス 生命尊重	11	28.9%	6
セ 自然愛, 畏敬の念	0	0.0%	22
ソ 人間の弱さの克服, 人間の気高さ	2	5.3%	18
タ 法やきまりの遵守, 権利と義務 社会の秩序と規律	12	31.6%	5
チ 公德心, 社会連帯, よりよい社会の実現	7	18.4%	11
ツ 正義, 公正・公平, 差別や偏見のない社会の実現	7	18.4%	11
テ 社会生活の向上, 役割と責任	9	23.7%	8
ト 勤労の尊さ, 奉仕, 公共の福祉	4	10.5%	16
ナ 家族愛	5	13.2%	15
ニ 愛校心	4	10.5%	16
ヌ 郷土愛	1	2.6%	19
ネ 日本人としての自覚, 文化の継承	1	2.6%	19
ノ 国際理解, 人類愛	0	0.0%	22

〈自由記述より〉

4. 「中1ギャップ」の原因は、どのようなことだとお考えですか。

○小学校（→ア. なめらかな接続 イ. 乗り越える力）

- ・教科担任制と全教科担任指導制との違い→イ
- ・子どもを取り巻く環境の変化→イ
- ・制服、部活、時間割（教科）の変化→イ
- ・小学校では、過保護すぎ（のような気が）、だが、中学校にあがった途端、周囲の大人の態度が変わってしまうこと（特に教師）
- ・中学というものが小学生には未知すぎて、対応できない子がいること→ア
- ・小学校の教師が中学校を、中学校の教師が小学校を敬虔していないからと感じています。→ア
- ・各校が集まって1つになったときの学校の雰囲気の違い→ア
- ・小学校の学校生活と中学校の学校生活の違いについていけない子どもが増えたこと、友達との人間関係づくりがうまくできない子どもが増えたことだと思います。その実態を小中の教員が把握し、指導、支援していかなければならないと思います。→ア
- ・校則の差。授業のスピード→ア
- ・勉強、部活、人間関係→ア
- ・小学校の教員と中学校の教員の意識の違い（子どもに対して）→ア
- ・中学校になると教科担任制になり、一人の生徒に接する時間が短くなる。より自律が求められ、自分の行動に対する責任が小学校以上に求められることも原因ではないかと思う。→ア
- ・自分の知らない世界に対する不安や新しい環境に対する戸惑いや違和感があるのではないかと思います。→ア
- ・小中の学校の雰囲気と教師の考え方の違いに生徒が戸惑うのではないか。→ア
- ・新しい教科や部活動等の人間関係、教科ごとに教師がかわり、1日中自分を見てくれるおとながないので不安になる子もいるのでは？→ア
- ・環境の変化→ア
- ・学校システムの違い（教科担任制）、指導の仕方の違い（小・・・ていねい、中・・・自主性を育む）※発達段階もあるので悪いことだとは思わない。→ア
- ・クラス担任制と教科担任制のちがい、校則の考え方のちがい、複数の小学校から1校の中学校に行った場合の人間関係の変化、高学年から後輩、下級生となった心境の変化、「今まではこうだった」という考えが通らなくなったこと→ア
- ・小学校とは違い教科担当になり、担任の長い時間いることがないので、相談する時間が少ないのではないか、また、部活も始まり、慣れるまで時間がかかっているのではないか。→ア
- ・授業の違い、部活中心の学校スタイルへの惑い→ア
- ・小学校生活と中学校生活の違い（規則、先輩後輩の関係、学習やテストの行われ方、教科担任制であること）→無答
- ・学習、生活ともに、子どもの自主性にまかされているところが中学校では多いが、小学校では6年生まで細かな配慮をして子どもたちに生活、学習させていると思います。→アとイ両方
- ・小学校は中学のような「校則」がなく、中学に比べ伸び伸びと自由な雰囲気の中で教育がなされている。中学校独特の先輩、後輩という縦社会が全面に出ている。小学校の高学年に教科担任制が取り入れられていない。→イ

- ・小学校と中学校のシステムの違い→イ
- ・友達の固定化、小から中へ、こなす事が大きく変化すること→イ
- ・小学校は担任が一日に1人1人に関わる時間が多くあるが、中学校は教科担任で接する時間も少ない。児童の自律を助け、人間関係をつくれるようにすることが大事。→イ
- ・耐性のなさ→イ
- ・小学校側として、中学校でどのような取り組みをしているか、知らないことが多い。→イ
- ・学習が難しくなる。他の学校の児童と同じ中学になることにより、交遊関係が広がる。→ア
- ・新しい環境への不安、適応がうまくいかない。→ア
- ・小学校と中学校との体制、雰囲気のアまりにも違い→ア
- ・小学校と中学校の環境の違い。校舎、施設はもとより、教職員も学習内容も日課も違いが多くありすぎて、中学に入学して適応することが困難になるのではないかと。→ア
- ・教員の意識の差→ア
- ・学習が急に難しくなり、小学校時代のように担任の先生との関わりが少なくなる。友達同士の関係が思春期と重なり、素直ではなくなる。→ア
- ・小学校生活と中学校生活の差があまりにもあるため→ア
- ・教師のかかわり方の違い、新しい環境（授業や部活、先輩、他の小学校の友達）への不安→ア
- ・担任制から教科担任制に変わる。小学校が長く、6年間あること。小学校の先生が大変な位、手をかけすぎること→ア
- ・環境の変化→ア

○中学校（→ア. なめらかな接続 イ. 乗り越える力）

- ・学校そのものの生活の流れの違いや教員の関わり方の違いがあるのではないかと。→ア
- ・小・中の連携がうまく図れていないから。私の所属する市は小中連携をテーマに研修を行っています。→ア
- ・教師が子どもの発達段階の把握を怠り、「中学生はこうあるべき」というプレッシャーをかけすぎること、小学校でどのような指導がなされているか把握できていないこと→ア
- ・小学校と中学校の環境の変化（生徒指導や教科担任制、部活など、いろいろあると思いますが）→ア
- ・複数の小学校から入学してくるため、その人間関係、友達関係づくりが一番大きい。→ア
- ・児童生徒の学校生活環境の変化→ア
- ・環境が変わること、小6→中1は生徒の周りのことすべてが変化するので、そのギャップに対応しきれない子が増えている。「小」までに親が守りすぎている気がする。→イ
- ・教科担任制、部活動などで（ただ、大半の生徒は中学校の生活になじみ、中学生活の方が充実して楽しいと言う生徒が多い）→イ
- ・休み時間が短く、移動教室も多いため、慌ただしいと感じている生徒が多い。部活で疲れて勉強できない、習い事との両立が難しいなど、生活スタイルが大きく変化して対応できない生徒が多い。→イ
- ・小学校と中学校の先生の指導の仕方のちがい、中学校に入学してからの人間関係の変化（先輩、後輩）→イ
- ・学校の制度の違い→イ
- ・環境がかわる。今まで小学校ではリーダーだったのが、中学入学で1番下になってしまう。人間

- 関係が変わる（小学校がいくつか集まった場合）。授業が増えたり、内容が難しくなって、理解が追いつかない。部活動（練習がきびしい、朝練がある、先輩との人間関係）→イ
- ・ 周りの情報に振り回されている。先入観から生じる不安（先輩は怖い、勉強が難しくなる、部活が厳しいなど）→イ
 - ・ 新しい人間関係の構築、小中の教師の生徒に対する対応のギャップ→イ
 - ・ すべてにおいて、状況をととのえられてから行動してきたことから、自ら考え行動していかなくてはなくなり、つまずきを見せる子どもと、難なくクリアーできる子がいることと思う。班行動といっても、小学校では教員がつくが、中学校ではつかない、などがあげられる。→イ
 - ・ ゆるい規律から厳しい規律への変化のギャップ→イ
 - ・ 部活という時間（人間関係・・・同学年、異学年との交流、肉体的な疲労）、毎時間（各教科）からの指示（宿題等他教科が出している量とかを考えずに自分の教科だけで出すと大変なことに・・・）→イ
 - ・ 最上級生としてリーダーをつとめてきた存在から、最下級生として全てを受け入れる立場に変わることでの戸惑い、環境の変化に対する柔軟性が少ない、完璧を求められるプレッシャー→イ
 - ・ 他小の生徒との人間関係づくり。塾に行き始めるなど、急に忙しくなる。自我が芽生え、自分の意見を持ち始めるが、他者が理解してくれない。→イ
 - ・ 中学校の教師が小学校に訪問、授業参観する機会を増やすべきである。小学校6年生の発達状況を把握していないことに原因があると思う。→ア
 - ・ 担任が主の指導から、教科担任制に変わる。部活動が始まり、人間関係や体力的な事で疲労が募るなど。→ア
 - ・ 小学校での指導がクラスによって甘く、中学校での指導が当たり前のことも、ハードルを高く感じているように思う。→ア
 - ・ 小学校では、1日を通して児童と担任が関わる時間が多く、細かい事まで色々と指示を出し、行動させているが、中学校では教科担任制になり、ある程度指示は出しても、本人に任せる部分が多いと思います。→ア
 - ・ 中学校は教科担任制になるので、同じ教室内でも様々な雰囲気、活動になり、1日の活動がほぼ1人の担当に見守られていることと違うため。部活動が開始され、先輩との関わり方に慣れるのに時間がかかる場合もあることと拘束時間が長くなるため→ア
 - ・ 教科ごとに担当の教師がかわり、やり方が違い、学習の量が増えたこと→イ
 - ・ 子どもの養育環境、保護者の考え方の変化→イ
 - ・ 小学校よりも厳しいルール、精神力が求められる部活、順位がハッキリ示される定期テスト、等だと思います。→イ
 - ・ 家庭、幼、小で基本的な生活習慣、集団で生活する意義やルール、マナー学習習慣などが身に付いてはいなさすぎて、制服の着方、机に向かって座る、授業中出歩かないなど、当たり前ののに、規制されすぎと思うのか、反発してしまう。はみ出してしまふことがさらに非行やイジメなどにつながっている。→イ
 - ・ 教科担任制になること、部活が始まること、集団の中で1番若い学年になることで、なまけやあまえが出る。→イ
 - ・ 教科担任制になることによる授業に対する意識の違い→イ
 - ・ 小学校では、小集団（クラス）での生活で自分の人間関係における位置を確立してきたが、中学

校では人間関係を新たにつくらなくてはならない。コミュニケーションスキルが貧しい生徒は、うまく人間関係をつくれなくなる。→イ

- ・中学生になれば、教科担当制や部活動など、1つ1つが小学生の頃とは違うので、原因が何かと言われれば、全てがそうだと思います。中1ギャップはあって当たり前のことで、環境の変化に対応する力をつけていくべきだと思います。→イ
- ・親の意識（成長期の子供への接し方、学校との連携不足）→イ
- ・担任指導から教科担当になり、いつもそばにいて何でも聞ける保護者のような担任から離れ、自己責任が求められる中学。事故が確立していない生徒には大変だと思う。→イ
- ・環境の変化に対応する子供の適応能力が低下している。（多忙、コミュニケーション能力の低下）→イ
- ・遊ぶ時間を含め、自由にできる時間が減ること。授業（学習内容量）が多く、深くなること。子どもに接する時間の違い（担任）→イ
- ・社会性などを身に付ける体験が乏しく、精神的に幼すぎるまま、中学入学を迎えてしまうこと→イ

6. 「中1ギャップ」の原因を踏まえ、小中のなめらかな接続のために、道徳教育でできることはどんなことだとお考えですか。

○小学校（→ア. なめらかな接続 イ. 乗り越える力）

- ・教師同士の連携、引継業務の強化→イ
- ・多様な考え方を知り、人それぞれ考え方は違うけれど、自分には自分なりのよさがあるということに気づけるようにしていくこと。→イ
- ・中学校の先生が小学校に来て、道徳の授業。中学校が題材になっているものを授業で扱う。→イ
- ・小中の教員同士が行き来し、お互いの子どもの現状をより把握できるようにすることが大切。もちろん子ども同士の行き来も。小中合同の行事の取組、日々の話の中でも小中の話をする。→ア
- ・小学校の教師は中学校を、中学校の教師は小学校の授業を一度でも見ると、変わると思います。→ア
- ・小・中の授業参観、中学校の先生が授業を行うなど→ア
- ・人とかかわる力を育てる。（相手を思いやる心、豊かなコミュニケーション能力など）自尊感情を育てる。→ア
- ・規律に関する内容や、誠実等の項目の授業の充実→ア
- ・中学校の様子を6年で事前に学ぶ。→ア
- ・中学校生活を見据え、発達段階を踏まえた指導計画を立て、意図的、計画的に指導する。小中連絡会を行っているが、授業を見合うだけでなく授業を実際に行うこともよいのではないと思う。→ア
- ・自己肯定感をもち、自分を好き（自信をもてる）でいられるようにすることなどではないかと思う。また、中学校の先生に授業を行ってもらうなど。→ア
- ・中学生や中学校の教員によるゲストティーチャーなど→ア
- ・「道徳の内容」の2・4の充実→ア
- ・まずは、道徳教育を6年間小学校でしっかり行い、道徳心や道徳的実践力をしっかり身に付ける。→ア

- ・起こりうる悩み、事例に対して考えさせ、免疫を持てるようにする。中1ギャップを意識した小中交流の実践→ア
- ・1校の小学校から1校の中学校に行くのと、複数の小学校から1校の中学校に行くのとでは違いはあるが、守らなくてはならない最低限のルールや考え方をそろえることはできると思う。(規律、あいさつなど)→ア
- ・小中での情報交換→ア
- ・6年生で、それに関する資料を用いて、中1からのメッセージを終末で読んだりする。→無答
- ・子どもたちの自主性を育てること。小学校の各行事でもその視点をもって児童に取り組みをさせられるよう、教員の共通理解を図ること。→アとイ、両方に○
- ・新しい環境での人間関係づくり、ギャップを乗り越える力を身に付ける、困ったことを相談できる教師との人間関係→イ
- ・「主として他の人とのかかわりに関すること」での人間形成→イ
- ・人間関係づくりに必要な友情、信頼などを中心としたもの→イ
- ・生徒指導上のきまり等を統一させていくこと→イ
- ・中学生の生き方を題材にした資料を扱う。小学生・中学生が交流できる体験活動を行う。→ア
- ・小学校のうちから、中学校との交流ができるような体験活動等をすすめる。→ア
- ・6年担任と中1担任の結びつきの強化(授業を見合ったり、話し合いをもったりする)→ア
- ・小学校低学年から中学年、高学年、そして、中学校へと段階をふんで指導を重ねること。ひとつの価値項目についても、それぞれの発達段階に合わせてアプローチすることができる。→ア
- ・助け合い等の価値とともに、人間関係のとり方についても触れる機会を多くすることが大切→ア
- ・特活と連携をし、小学校に中学校の情報を伝える。→ア
- ・小学校の教師が中学校で授業を行うなどすると、交流が図れてよい。→ア
- ・小・中の教員がお互いに授業公開をする。小中合同の体験活動を積極的に行う。→ア
- ・小学校のうちから、なりたい自分を意識させる。→ア
- ・お互いの授業公開と参観→ア

○中学校(→ア. なめらかな接続 イ. 乗り越える力)

- ・「向上心」などを主題とした内容で、指導できればと思います。→ア
- ・小学校の協力をあおいで、半ば価値の内容は小学校のものをそのまま用いながら取り組むこと。特に小学校の授業を学ぶべき。→ア
- ・思いやり、相手の立場に立つ、自他を認める心→ア
- ・小中での道徳授業参観などを通し、小中間の教師の相互理解を図った上での指導実践や道徳環境(掲示物や副教材の扱いなど)を小中でそろえていくこと。→ア
- ・学期に1度(2度)程度の互いの学校の授業参観、親も見に来て良い参観型にする。→イ
- ・小学生のうちから、中学校生活がどのようなものなのかを知る機会をもたせる。(学校見学、部活動の見学など)→イ
- ・小学校、中学校の先生同士の連携を密にすること→イ
- ・礼儀を重んじる姿勢→イ
- ・行事等での小中の交流を図る(合同運動会など)中学校の先生が小学校で授業を行う(出前授業)中学生が小学校低学年に読み聞かせを行う。※できる範囲で→イ

- ・目標に向かって、地道に努力することの大切さを教える。→イ
- ・中学教師の小学校への授業等への積極的参加・参画、小学校教師（高学年）の中学校への参観及び授業参加→イ
- ・地域の中で、世代を越えて、共に行動する機会を増やすといいと思う。→イ
- ・校則（規則）の意味→イ
- ・字をていねいに書くこと（黒板への記入）→イ
- ・他者を受容する態度を育てることで、子どもたちは環境の変化にもついていけるようになると思う。→イ
- ・コミュニケーション能力の育成（人間関係づくり）→イ
- ・道徳の授業の進め方も、小中では全く違うと思われる。小中の道徳部会が中心となり、道徳の授業研究会を行っていくとよいと思う。特に、小学校の授業を見に行く方が良い。→ア
- ・小中でどんな事を身に付けさせたいか、育てたいのか、共通理解をはかり、道徳教育に取り組むことだと思います。→ア
- ・悩んでいること、困っていること、大変だと感じているのは自分一人ではないことを知る機会の場である道徳としたい。→ア
- ・きまりを守る姿勢はどんな場面でも必要だということを身に付けさせる。→ア
- ・小学校で発達段階に応じてさまざまな活動を体験させること。中学校では職員間の連携を密にすること、小中ともに自分のよさ、友達のよさを知らせるため、一人一人に活躍の場を与えること。→ア
- ・生徒同士が互いに協力し合い、声を掛け合える雰囲気を作ることではないか。→イ
- ・小中連携で高学年（５、６年）が中学校の行事や部活、体験授業を受けたりする。中学生が小学校で家庭科など技能教科のヘルパーのような形で交流するなど。→イ
- ・中学校入学をプラスの意味の区切りとさせる。始めは所属感を高めるような取り組みや、より良い人間関係を考えさせるような資料を多く扱い、生徒が早く「居場所」を見つける手助けをする。→イ
- ・基本的な生活習慣の大切さは、年齢が上がる毎にできなくなる傾向にあるので、社会で生きていく基礎であることを常に教えていくことと、中学生になると授業形態が変わったり、部活が始まったりと、新しい人間関係作り、集団での行動力、マナーなどが問われるので、そのあたり、日々の声がけも大切だが、授業でも繰り返し取り上げていく必要がある。→イ
- ・内容項目１－（２）夢や希望についての資料の開発→中学校生活、夢をもってがんばる気持ちを育てる。→イ
- ・各教科、複数の目で子どもを認める機会を増やしていくこと。→イ
- ・お互いを認め合うこと、人間関係をつくる上では、葛藤も必要であることを伝えていく。→ア
- ・中学校の先生も、道徳にもっと積極的になることだと思います。小学校では、ちゃんとした道徳の授業をやっているのだから、その習慣をしっかり受け継いでいくべきだと思います。成長の発達段階でやりにくくなってくるのは分かりますが・・・→イ
- ・体験活動など一緒に（中学でやるとか）→イ
- ・望ましい人間関係の育成→イ
- ・時間を守る（規律）、まわりに迷惑をかけない（まわりのことを考えられる）集団の規律の意味を納得し、大切にできるような力をつけておく。（重視する）→イ

- ・小学校では、中学校で（特に中１で）どのようなことが求められるのかを意識して、教師側が指導にあたること。中学校では、小学校での児童の様子等を知る機会を積極的に作ること→イ

8. 小中連携を進める上で、課題となる（なっている）ものは何だとお考えですか。

○小学校（→ア. なめらかな接続 イ. 乗り越える力）

- ・日常業務の多忙→イ
- ・時間がないこと→イ
- ・規則の違い（細かい所まで）→イ
- ・小中の子ども同士、教員同士のコミュニケーション不足。小中の子ども同士の相手に対しての敬意。→ア
- ・思い切った人事交流が必要だと思います。→ア
- ・普段の仕事に時間がとられ、連絡をとるまでいたらない。→ア
- ・小中連携が大切だと言われているが、具体的な取り組みがあまりなされていない。計画的に取り組めていないことが課題だと思います。小学校と中学校の教員同士が話し合う場が少ないのが現実だと思います。→ア
- ・合同研修会等を設ける時間。１校だけでは決定できないこと。（中学校区の他の小学校とも連携の必要有り）→ア
- ・先生方の交流→ア
- ・小学校の教員と中学校の教員とが話し合ったり、情報交換をまめにするための時間がないこと。→ア
- ・それぞれ仕事が忙しく、時間的なゆとりがないこと。小学校の頃の様子と中学校に行ってからの子どもの成長の変化に違いがあり、児童生徒の捉え方が小学校と中学校の先生では多少ズレがあるのではないかと感じることもある。（問題視すべき観点が違う？）じっくりと話し合う時間（機会）がもっと多く持てたらよいと思う。→ア
- ・生徒指導等では、密に連絡、連携がとられているのだと思うが、やはり小中間で連携を進めるための共通の理解を持つ場や時間的余裕などが少ないのではないかなと思う。→ア
- ・小中の教員が互いに相手の学校のことを分かっていない。校種間の人事異動をもっと活発にしたらよいと思う。→ア
- ・前任校でJプランをやって、スムーズに中学校に入っていた児童を見て、全校にこのようなシステムが導入できればよいと思った。→ア
- ・時間の確保（打ち合わせも含め、小中の時間を合わせるのが難しい）→ア
- ・教員の質の違い、授業時数の増加、教員のゆとりのなさ→ア
- ・足並みをそろえること→ア
- ・小中での情報交換の場が少ないので、お互いの様子が分からない。参観をお互いに行っていけばよいのだが、時間がとれない現状がある。→ア
- ・関わる時間の少なさ。（教師同士、子ども同士）※中学生が合唱を発表しに来校してくれています。今後はもう少し、意見交換のできる機会が増やせたらと思います。→無答
- ・時間の確保→無答
- ・小中の教職員の交流がないこと、両校多忙であること、小中それぞれの教育活動が理解されていないこと→両方に○

- ・忙しくて時間がとれない。→行事の精選→イ
- ・小中ともに、連携に使える時間が少ない。やはり、一緒に時間を過ごすことが大切だと考える。
→イ
- ・児童・生徒の変化にきちんと対応できる指導、取り組み→イ
- ・小中連携でお互いに訪問し合っているが、年に1回位では向上しないが、基本的な部分（授業のルール等）を共通理解し合うのは重要である。→イ
- ・忙しさ→イ
- ・話し合う時間が少ない→ア
- ・小中間の研修や体験活動等を実施するのがなかなか難しい。→ア
- ・小学校（中学校）の授業を見ても仕方ないなどの教師の意識、管理職の方針→ア
- ・小中間の交流を実施することが難しくなったと感じる。例えば、小6生の市内体育大会の放課後練習に、卒業生（中学生）が参加してくれることが以前は当たり前のように行われていたが、現在では、安全面への配慮等もあって、自由に参加することが難しくなったようだ。他にも、学校間で事前に打ち合わせを入念に行ってからでないと実施できないこともあり、労多くして・・・の感がある。→ア
- ・児童理解→ア
- ・話し合う時間や一緒に活動する時間があまりとれない。→ア
- ・小学校と中学校が遠いので、連携を深めにくいのではないかと思う。→ア
- ・時間の確保、意識の温度差→ア
- ・子どもを見つめる時間が足りなくなってしまうほどの、次から次へと押し寄せてくる仕事。→ア
- ・時間的制約→ア

○中学校（→ア．なめらかな接続 イ．乗り越える力）

- ・中学校の双方で、ゆっくり話し合う時間をつくるのが難しい。→ア
- ・うちの地域の場合ですが、中学校側に学ぶ意識がうすい。小学校の若手教員の中に、そもそも本人の言動に課題の多い者が複数おり、教師の規範意識に課題がある。→ア
- ・生徒指導、教育相談などの生徒指導→ア
- ・きまりや指導等、校区内の小学校が統一され、その流れに沿ったかたちで中学校のきまりや指導があるべき。小学校がバラバラだと連携したくてもできない。→ア
- ・教師間交流・・・「小学校では〇〇である」「中学校では〇〇である」と主張し、歩み寄りが少ないと、変化に対応しきれない子どもが多くなるように考える。→ア
- ・時間帯が合わない。（教員も、子どもも・・・）小学校の先生と中学校の先生の育てたい子どもの意識の違い（発達段階にもよる・・・）が共通していない。→「小中年間指導計画（道徳）」を作成してはどうか。→イ
- ・中学校が小学校でどのような教育、指導をしているのか（具体的なこと、内容）を知らないこと、知る機会がないこと。→イ
- ・時間の確保→イ
- ・小中学校間での連携が行われる時間が十分にとれないこと、事務処理等に追われて、道徳の教材研究や、小学校に関わる時間をとれないでいる。→イ
- ・小中の職員同士の打ち合わせ、どちらが主担当で行うか、担当者、かかる費用の負担、年間計画

→イ

- ・小中連携を行う時間や、そのために準備をする時間の確保→イ
- ・（本校では）十数校の小学校から入学している現状。指導形態の差、地域意識の希薄さ→イ
- ・中学生の1～3年生の間でも、発達段階が存在するところを、小学生の何年生を対象に、そして、中学生はとを考えていくと、生徒指導上の問題を抱えている生徒を見せたくはないという思いがある。よい子はたくさんいるけれど、悪い影響はすぐに受けやすいと考えられる。→イ
- ・機会を意図的に作らないと、進められない。→イ
- ・小学校は小学校で、中学校は中学校で、それぞれ責任の転嫁をしている風がある。→イ
- ・教員同士の関わりが少ない。小中でお互いにどのようなことが行われているかが把握できていない。→イ
- ・小学校の先生と話し合う時間が少ない。月に1回程度、小中合同研修会を行うべきだと思う。→イ
- ・中学校の教師が、小学校の授業を参観するのが一番良い方法だと思うが、時間を確保できないのが課題である。それができないなら、中学校側が小学校の様子を積極的に知ろうとする意識が必要である。→ア
- ・小学校と中学校の意識の違い。共通理解を図るような時間をもてないので、なかなか難しいと思います。→ア
- ・クラス編成のために必要な情報さえも、小学校によっては、怠慢で、4月に入ってからようやく届き、届いた内容もお粗末なもので、大変困った。小学校の先生方に6年間だけでなく、義務教育最後の3年間の子どもたちの成長も心から願った行動をとってもらいたい。（蕨市です）→ア
- ・小中の先生と交流、研修をする場が少ないこと。（お互いの取り組みが分かりにくいので）→ア
- ・お互いの学校での状況、現実が分からない。→無答
- ・小学校では、担任による考え方が、生徒への視点の中心となり、教師と生徒との人間関係が難しいところ。→中学校への連絡について、入学前と入学後の実態が違いすぎる点→イ
- ・中学校の忙しさ、連携をとる時間を十分にとれない。→イ
- ・生徒指導の共通理解が欠けていること。同じ問題に対し、小中で違いのない対応をすることが、信頼を得るためには必要だと思います。→イ
- ・一生懸命やっているのは、連携担当の先生で、小から送られてくる子は、あまり変わりばえしないし、生徒指導的な面も含め、情報も違っていたり、なかったり、忙しいのか、あまり卒業後のことを考えてくれてないです。6年間子守りをして、中学に送り出せばいい、というのでは、中学校の3年後の進路保障はできないのです。いろんな基本が身に付いていないから、中1からやり直すのは無理です。ただ、昨年度から、一日体験入学＋部活見学などをやり始め、授業を行うなどして、“覚悟”を決めさせる場を作っている。→イ
- ・中学校側の負担が多すぎる→イ
- ・情報交換の機会の不足→イ
- ・お互いの学校の状況を理解するまでの連携ではない。（時間が少ないという意味）→ア
- ・コミュニケーションの量だと思います。教科や生徒指導・・・さまざまな部でのたて（小中）の連携がもっとあるといいのではないかと思います。→イ
- ・日常の忙しさ（会議や部活、生徒指導）→イ
- ・小学校の担任の先生が閉鎖的のような。中学入学の際、クラス分けなど、もっと協力してほしい。

→イ

- ・ 共通理解不足。小中連携の機会は以前と比べれば多くなったが、やはり、お互いのことを理解し合えていない。やはり、更に増やしていく必要がある。→イ
- ・ 小中間の様々な認識のズレをうめるための時間がないこと。→イ